

令和3年度学校評価報告書

学校名〔京丹後市立峰山小学校〕

評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
学校経営方針(中期経営目標) 社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら主体的に生きるこ とができる力を育てる。 将来に生きて働く質の高い学力を育てる。 よりよい生き方・在り方を深く考え、自律的に行動する力を育てる。 学んだことなどを生かして、よりよい社会の形成に貢献しようとする態度を育てる。	○児童が自ら考え諸問題を主体的に解決する学級活動、特別活動の取組が進展した。結果として、児童の良好な関係性や自律的な判断力・行動力が高まつた。 ○不登校（傾向）児童への支援、愛着形成不全等の心理的課題や発達障害等への支援が進展した。結果として、学校不適応（特に不登校）が改善した。 △基礎的・基本的な知識や技能等の学力を高めることは、やや不十分であった。	①かかわり合いの中で学ばせることを主とした伝え合い、話し合い、 ②非認知的能力を育成する授業づくりを重点に位置づけ、組織的に実践的な研修を行う。 ③授業づくり月間等を設定して、すべての教員がオンライン授業等による日常的なスキルアップに取り組む。 ④児童の学び合いを深めるために、電子黒板やタブレット端末等のICT機器を活用する。 ⑤指導教諭による専科授業・TT授業により、指導教諭の指導力を普及する。	○話し合いや教え合いなどによる主体的・対話的な学習形態が日常的になった。結果として、児童アンケートで「授業がよく分かる」「自分の考えを伝えている」がともに90%となるなど、児童は学習を概ね肯定的に評価している。 ○電子黒板やタブレット等のICT機器の日常的な活用が進み、学び合いの質が向上した。 ○各教員が年間に複数回の授業公開を行い、指導力を高め合うことができた。 △三密回避の授業のため、「話し合」と学習がよく分かることで、昨年度以上の進展は見られなかつた。 ○運動会、学習発表会、マラソン大会などを児童主体の取組に改善し、自律性を高めた。90%以上の児童が「問題を話し合って解決している」「自分の仕事をやりきっている」「助け合っている」などと肯定的に評価している。 ○関係機関と連携して不登校児童への個別支援を組織的に実施し、出席率が昨年度40%から本年度70%以上となった児童がいるなど、不登校（傾向）の状況が改善した。 △3名が本年度に新規不登校となつており、こども園等の連携や不適応防止の取組を一層徹底する必要がある。
教育課程 学習指導	○児童の主体的な学び合いによる学習を通して、将来に生きて働く力、知識・技能、思考力、自律的に判断し行動する力など、他者と協働する力などの「質の高い学力」を伸ばす。	①児童が自ら決定し、話し合い、問題を解決する自律的で問題解決的な学級経営や特別活動を行う。 ②本校が付けていきたい力と「各学年で目指す姿（峰山学園共通）」を学級経営に位置付け、実現を目指して取り組む。 ③不登校や学校不適応を未然防止するため、毎週1回の児童支援会議を中心とし、学習指導・教育相談・特別支援等の多面から計画的・組織的に児童支援を行う。 ④スクールカウンセラー、関係機関、医療、福祉等との情報連携・行動連携を強化する。	○多様な児童が認め合い育ち合う力をはぐくむ指導を通して、共感的な人間関係を醸成する。 ○組織的な児童支援を通して、不登校や不適応、いじめを未然防止する。
生徒指導	保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として		

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症予防に自ら取り組む態度と基本的な生活習慣を、すべての授業を、校内での感染防止対策を徹底する。 ○交通事故防止を徹底し、児童の安全を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新型コロナウイルスによる科学的な知識や生活習慣の大切さに関する知識や生活様式、基本的生活習慣の大切さに開く授業を、すべての学年で継続的に行う。 ②家庭やPTA、峰山学園と連携し、SNS・ゲーム等による生活の乱れや安全上の問題に対して、児童・保護者の学習・研修・啓発を進める。 ③PTAや地域の安全ボランティア組織等と連携し、登下校の安全確保と事故防止の取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルスに関する科学的な知識や予防について学ぶ授業を毎学期行うとともに、校内での感染防止対策を徹底した。その結果、児童の感染確認はあつたものの、校内での大規模な拡大には至らなかつた。 ○PTA、ボランティア組織による地域ぐるみでの登下校見守りが毎日行われ、児童の無事故が継続できた。 △SNS等でのトラブルはなかつたものの、ネット視聴により生活が乱れる児童が増加している。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の社会参加に向けた自立支援をするという立場から、児童一人一人の教育的ニーズを整理し、すべての児童が自分らしさを伸ばしめる環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①どの児童もわかりやすい一音指導や、どの児童も参加できる集団活動を目指して授業や行事をつくる。 ②特別支援教育コーディネーターと児童支援部会を中核に置き、通常の学級における支援を強化する。 ③本校独自の特別支援教室を設置し、個別支援を行なう。 ④特別支援学級児童一人一人に応じた教育課程を編成・実施するとともに、交流・共同学習の質を高める。 ⑤保護者と定期的な懇談を行い、合意形成を図りながら、一人一人に応じた合理的な配慮を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学びにくさや集団参加の苦手さなどがある児童に対して、行事設計の工夫、個別支援や合理的な配慮を徹底した。 ○「先生は自分のよさを分かってくれる」「先生は気軽に相談できる」と感じている児童が94%となつた。 ○特別支援学級独自の生活単元学習や自立活動などを創意工夫することにより、児童が着実に能力を伸ばし、特別支援学級や特別支援教育への理解と信頼、評価が高まつた。 △愛着形成に課題のある児童や、厳しい状況に置かれている家庭への支援をさらに工夫する必要がある。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域社会との連携・協働を通して、教育活動を工夫改善し、児童の学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域性を生かし地域の人材を活用した特色ある学習活動を創意工夫して実施する。 ②学校の方針や情報、教育活動を様々な手段で発信する。 ③学校評議員、学校関係者評価委員、学校（学園）運営協議会の意見・評価から学校経営等を改善する。 ④大学等の研究機関と連携した実践研究を行う。 	
次年度に向けた改善の方向性			
		<ul style="list-style-type: none"> (1) 学び合う学習指導、育ち合う学級経営が適切に進められるよう、校内や峰山学園での研修を一層充実する。 (2) 児童の自律的・自治的な活動をさらに進め、自ら考え判断し、協働し、挑戦する力を高める。 (3) すべての児童に学校での学びを保障する観点から、一人一人の児童や家庭の状況を的確に把握・共有し、関係機関と連携したチーム支援を一層強化する。 (4) こども園や中学校との連携を強化し、長期的に個々の児童の成長発達を見ることができるようにする。 	

令和3年度学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立いさなご小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 保幼小中一貫教育	1 教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 2 意欲を持つて自ら学ぶ子どもも 3 思いやりのある子どもも 4 進んで心と体を鍛える子どもも	規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎にして「深い学び」を目指す指導の在り方にについて研究が進んだ。「分かる・できる」授業づくりと「お互いを認め合う」学級づくりを土台とし、今年度も「ことばの力」をすべての教育活動に位置付け、コミュニケーション能力の育成を柱として教育活動を進める。	1 子ども像を具体化する重点 2 自ら考え判断し、表現する力を向上させる。 3 他者に貢献する態度を育てる。 4 自らの目標を設定し、自分で調整しながら根気強く、やり抜く力を育てる。 4 保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。	1 目指す子ども像を具体化する重点 2 自らの時間と力を周りの人々のためにもつかい、他者に貢献する態度を育てる。 3 自らの目標を設定し、自分で調整しながら根気強く、やり抜く力を育てる。 4 保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。	○コミュニケーション力を伸ばすため、どのように児童が分かれる授業を研究授業等によつて教員が学び合う。深い学びによる「指導」と「評価」の研究を通して新学習指導要領において育成を目指す質・能力について理解する。 2 学びの自立を目指すため、発達年齢に応じた家庭学習の指導を進め、個に応じた指導を充実させる。
生徒指導	1 教育目標 (評価) が明確で児童に分かりやすい授業を計画的に進める。 2 家庭学習や個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着と確かな学力の進展を図る。	1 特別支援教育部、教育相談部が連携し、支援を行うとする児童を的確に把握しアセスメントを行い、保護者とともに目標を設定し、指導支援を進める。 2 授業づくりを通して学級づくりを行なうことを全教員で確認し、授業で自己存在感・共感的な人間関係・自己決定する場を設定する。また、日々の肯定的評価を積み重ね、自己肯定感を高めるとともに、お互いの良さや頑張りを認め合える集団づくりを進める。	○支援を要する児童のエピソード記録を週1回教員で共有し、組織的に支援を行うことができた。 ○月・学期1回の保護者面談を継続し保護者とともに目標を共有して支援をすめることができた。 ○必要に応じて臨床心理士の助言を求めた。 ○言葉や行動を「つなぎ」「応える」ことを続け、相手意識を高めることができた。		
	1 支援を必要とする児童へのきめ細かな目標設定を行う。 2 自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高め、学び合う集団(学級)をつくる。 3 自分の力と自分のために使うことを価値付けする。	3 学級活動や異年齢集団での活動における、行動価値として、他者貢献の視点を常に伝えていく。	保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として		

<p>健康（体育）・安全</p> <p>1 全校的な感染症予防や体力にかかる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、自分自身の身体に関心を持たせる。</p> <p>2 困難なことにもねばり強く挑戦していこうとする態度を育成するために、自分で目標設定できる力を付ける。</p>	<p>1 体育部、健康安全部等が中心となり、感染症予防の取組を継続的に行い、保護者にも啓発することで身体への関心を高める。また、体育の授業と運動させた持久走や縄跳びを継続的に実施し、体力向上と粘り強く頑張ろうとする態度を高める。</p> <p>2 学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。</p>	<p>○「いさなご小学校感染症予防マニュアル」を作成し、状況の変化に併せて更新し教育活動を行うことができた。</p> <p>○学期・取組ごとに自分の目標を設定し、取組過程を丁寧に扱い意欲を高められた。</p> <p>△コロナ禍のため、全校的な取組を実施できなかつたが、活動人數や方法などを工夫することにより体力向上に努めた。</p>
<p>人権教育</p> <p>1 規範意識を身に付けさせ、いいじめを許さない心を育て、行動できるようにする。</p> <p>2 発達段階に応じた仲間意識を育成する指導を進める。</p>	<p>1 全教育活動を通して道徳教育・人権教育の推進、規範意識の醸成によりいじめの防止を行う。また、「他者への思いやり」についての指導を重視する。</p> <p>2 互いの個性や価値観の違いを認め、得意なこと認め、さらに伸ばす指導を行う。</p>	<p>○新型コロナウィルス感染症についての指導により、悲しい思いをする事象は見られなかった。</p> <p>△年間を通して友達、自分を大切にする指導を行つた。自分がしていることがいいじめにつながることへの意識は低い。その気付きを高めるためにも、教職員の人权に対する研修を充実させる。</p>
<p>研修（資質向上）</p> <p>1 職員の指導力向上に向けた研修を積極的に進める。</p> <p>2 峰山学園が目指す保幼小中10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進めると。</p>	<p>1 峰山学園における研修会、校内の授業研修会等をとおして、職員の指導力向上に向けた研修を行う。適宜、評価を行い、日々の実践と結びつけた価値づけを行う。</p> <p>2 峰山学園の「(0)Ⅰ～Ⅲ期における「目指す姿」」を共有し、その実現に向けた取組のあり方(Ⅰ期前半、後半、Ⅱ期における指導のポイント)について研修を進める。</p>	<p>○全ての教員が校内授業公開を1回以上実施し、事後研究会を行い、互いの指導力向上に努めることができた。</p> <p>○峰山学園Ⅰ～Ⅲ期における「目指す姿」を意識した指導を行うため、改めて「目指す姿」達成のために必要なことを研修できた。</p> <p>・教員が一人一人の様子を細かに把握し、お互いを認め合う学級経営を土台として「分かる・できる」授業づくりを進める。</p> <p>・将来の社会的自立に向けて、学習指導要領で示されている各教科における「育成を目指す資質・能力」を明確にし、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を目指して研究を深めていく。</p> <p>・外部機関と連携して指導の方向性を明確にし、個に応じた支援を進める。</p>

次年度に向けた
改善の方向性

令和3年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立しんざん小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 一人ひとりが自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】		<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力の育成に向け、模擬授業を行って新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業研究会を行うことができた。 ○苦手のある児童への専門機関と連携した指導・支援を行うこととともに、適切な就学指導につなげることができた。 ○生徒指導の三機能を生かした学級経営により落ち着いた教育環境づくりができる「学校が楽しい」と思う児童が増えた。 △不登校傾向や不登校の児童へ外部の専門機関と連携し、家庭との連携も進めてきたが、改善つながったとは言えない。 	<p>[笑顔あふれる楽しい学校]</p> <p>～わくわく Let's アップデート～</p> <p>◇やればできる自分に出会う（一人で）</p> <p>◇みんなで学ぶから深まる（みんなで）</p> <p>△大切にして、学園評価・学校評価の結果に基づく教育実践の改善を図り、学校経営を充実させ、地域・保護者から信頼される学校を目指す。</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を組織的に進める。 2 豊かな人間関係を構築し、自ら学び続けようとする意欲と態度を醸成する。 3 児童実態を的確に把握し、児童向上に向けた組織的な研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 授業の中で積極的にICT活用を進めることで慣れることと、その積み重ねから効果の共有をねらいとする。 2 主体的・対話的で深い学びの実現のための校内研修会やグループ研究を計画的に実施し、模擬授業を指導力向上の場として取り組みを進めよう。 3 言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を目指し児童に自己肯定感を育む。生徒指導の三機能を生かした授業づくりを学園組織と連動し追求する。 	<p>○一人1台の端末を使うことに慣れ、興味を高め、効果的な活用を模索し学びを深めることができた。</p> <p>○模擬授業を学びの柱として、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業研究会を行うことができた。</p> <p>△児童アンケートの「学習がわかる」の項目では93%の肯定的な回答があつたが、7%の児童への手立てを進める必要がある。</p> <p>○「自分にはよいところがある」の項目では、肯定的な回答が93%で昨年度より10%の伸びが見られた。</p>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 1 いじめ事象、不登校傾向児童、問題事象等の早期発見・未然防止に努める。 2 生徒指導の三機能を生かした授業作り、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、豊かな人間関係を築く力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 児童の内面理解や安心して学べる教室環境を築くための職員研修を実施する。 2 気になる児童の様子や事象に関して素早く反応し、「報告・連絡・相談」ができる職員の体制を築き、不登校の解決と未然防止、いじめの防止等に努める。 3 「なぜ、何のために」を大切に規範意識や集団生活上必要なマナー・行動について考えさせ、行動できる力を培う。 4 道徳教育、人権教育、特別支援教育の視点を大事にした取組を組織的に進める。（児童会の取組、日々の授業） 	<p>△生徒指導の三機能を生かした学級経営により、落ち着いた教育環境づくりができた。「学校が楽しい」の項目では、96%が肯定的回答だった。</p> <p>△不登校傾向への対応は、教育相談部を中心とした組織的な支援を行っているが、継続的な取組が必要である。また、いじめアンケートの結果は、丁寧に聞き取り等を行い、早期の解決を図った。</p> <p>○「なぜ、何のために」を考えさせる指導により、「ルールを守っている」の項目では、97%の児童が肯定的回答であった。</p>

健康（体育）・安全	<p>1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体力作り、スポートに親しむ能力や態度を育成する。</p> <p>2 家庭・地域との連携を図り安心安全な登下校を目指す。</p> <p>3 基礎的な生活習慣の確立を目指す。</p>	<p>1 朝マラソン、朝縄跳び、日々の体育等を通して基礎体力の向上を図る。</p> <p>2 発達段階に応じて薬物乱用教室、非行防止教室、SNS講習会等を計画的に実施した。</p> <p>3 安全ボランティアの皆さんに見守り活動を大変充実していただいた。</p> <p>4 「早寝・早起き・朝ごはん」を意識した「生き生き頑張り週間」を設定し生活習慣を確立する。</p> <p>5 栄養教諭による「食」に関する講話を給食試食会の際に設定し、家庭の意識化を図る。</p>	<p>△運動面でも多くの制限があり、十分な成果につながったとは言えない。</p> <p>○薬物乱用教室、非行防止教室、SNS講習会等を計画的に実施した。</p> <p>○今年度も安全ボランティアの皆さんに見守り活動を大変充実していただいた。</p> <p>△生活習慣の確立では、特に「早寝」において保護者アンケートでは肯定的回答が80%を下回っており、改善の取組が必要である。</p>
特別支援教育	<p>1 障害への理解、多様性を認め合い、好ましい人間関係を築く。</p> <p>2 発達障害等の特性に応じた個別の支援のあり方を組織的に検討する。</p> <p>3 自閉・情緒学級を強みにし、特別支援教育の視点を全教育課程に反映させる。</p>	<p>1 合理的配慮を含めた個別のニーズに応じた支援を目指し、専門機関と連携し検討、改善を加えていく。</p> <p>2 保護者との定期的な懇談のもとに親の願いを反映させた支援計画を作成し、児童の発達を促す。</p> <p>3 専門機関と連携し、様々な障害に対する理解教育を進められる。見える障害、見えない障害等、様々な視点から理解教育を進める。</p> <p>4 特別支援学級児童や学級に対する理解教育を取組や行事と関連させて行う。</p>	<p>○苦手のある児童への専門機関と連携した取組を進め、指導・支援を行った。</p> <p>○定期的な面談等を行い、適切で効果的な支援の検討をし、取組を進めた。</p> <p>○専門機関と連携し、理解教育を進めることができた。</p> <p>△次年度に向けて、さらに特別支援学級ならではの支援や指導のあり方を追究し、3つの学級現在が全校の児童にとってもプラスとなるような教育活動を進めていく。</p>
(質)向上の取組)	<p>1 保幼小中一貫教育において峰山学園の「I～III期における『目指す姿』一覧」を教職員が共通理解し、系統的な指導を積み上げる。</p> <p>2 初任者研修を活用し、教師の指導力向上を目指す。</p> <p>3 教師の向上に向けた研修や教師の学び合いを重視し教師としての資質能力の向上を図る。</p>	<p>1 校内研修会で峰山学園が目指す「I～III期における『目指す姿』一覧」の共通理解を図った上で、学校経営方針に反映させ、実践を進めることができた。</p> <p>2 視点を明確に実践を進めることとした。各テスト士の対話に焦点化)</p> <p>3 校内での初任者研修を通して、全ての教職員が再認識をしたり日々の指導に生かしたりできるよう工夫する。</p> <p>4 新学習指導要領全面実施に係るカリキュラムマネジメントの視点や評価について研修を深め、検証・改善を進めることで、実践研究を行った。生き生きと英語を話す児童の姿が見られるようになつた。</p>	<p>○峰山学園が目指す「I～III期における『目指す姿』一覧」の4つの柱を学級経営方針に反映させ、実践を進めることができた。</p> <p>○確かに学力の育成に向け、重点教科を算数科とし、指導と評価の一体化を目指した。各テスト結果は概ね平均程度であった。</p> <p>○次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業の指定校として、実践研究を行つた。生き生きと英語を話す児童の姿が見られるようになつた。</p> <p>△ペアやグループでの活動に制限があり、目標達成にはたどり着かなかつた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> タブレットや電子黒板、デジタル教科書等、ICT活用によるGIGAスクール構想への対応を考慮した研修（授業研究）を、年間計画とともに全教職員で組織的に進める。 組織的・協働的な取組を大切にした学校運営を行い、地域・保護者から信頼される学校づくりをさらに進めていく。 各種学力テストや児童・保護者アンケート等の項目を学校経営方針とつなぎ、教育活動の充実を図る。 		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名「京丹後市立長岡小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価) (案)	
教育課程 学習指導	・「主体的・対話的で深い学び」の実現と自己肯定感を高める「できる」「わかる」「くる」授業づくりと評価の一体化 ・言葉の力の育成 ・全校ドリル活用と補習の充実 ・ICTの利活用	・市小研、学園保幼小中一貫教育の研究と連動し「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。「豊かににつながり、深め合う子ども達の姿を目指して～」を研究主題とし、算数科授業を軸に、「主体的に学ぶ力」「非認知能力」を育む研究を進め。評価まで見通した授業づくりを行う。 ・ノート指導、トータイム等の工夫、各期のねらいや接続を意識した系統性のある指導を進める。 ・全校で週2回(月・木)のドリルタイム、週1回(火)補習の活用・充実を図る。放課後補習では、「ジュニアわくわくスタイル」等を活用する。 ・学園家庭学習がんばり週間では、目標の明確化、家庭との連携等、学校全体の動きをつくり学習意欲を向上する。 ・ICTを効果的に活用する授業づくりに係る研修を行う。	○全教科・領域の授業において、UDと生徒指導の3機能の視点を大切にし、目標と指導と評価が一体化する環境を整備し、特別支援コーディネーターを中心に、支援のあり方を検討し家庭との連携も含めた取組を進めた。 △主催的に自分の考えを表現し伝え合う力を付ける。 △各家庭・PTAと連携し、児童の家庭生活における課題を共有し、家庭学習の習慣化を図る取組をさらに進める。 △学校行事や児童会行事等で付けたい力を明確に取り組み、児童と教職員、児童同士の温かな関係づくりを進める。	○つながる笑顔があふれる学校づくり「ながおか大作戦」 1、質の高い学力・コミュニケーション能力の育成 2 一人一人を大切に個性や能力を最大限に伸ばす指導 3 人を思いやる豊かな人間性の育成 4 たくましく健やかな心身の育成 5 安心・安全で信頼される学校づくり～レッゴー！あしたへ～	○低・高学年グループで授業研究を進め、峰山学園秋季研修会を節として、協働的に授業改善に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した。児童が考えを対話により深めたり、友達の考え方を認めたりなど、つながりの中で主体的に学ぶ姿が見られた。 ○毎週木曜日のトータイムの充実を図り、児童の表現力、コミュニケーション能力を高めた。 ○家庭学習がんばり週間を2週間の取組とし、自主学習等のノートを担任以外も見て言葉かけをし、意欲向上と内容充実につなげた。 △タブレット活用が進み、高学年を中心ロイロノートで提出・交流をし、ドリルパークの漢字や計算の学習に取り組むなど、個別最適な学び、協働的な学びを追究するツールとしてしてきた。さらに、タブレットの活用を進め、家庭学習の習慣化や内容の充実を図る。

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成 ・危機管理の充実と安心・安全な学校づくり、環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校・いじめ・問題事象未然防止に向けて、組織的に機能する教育相談体制の充実と取組を推進する。 ・目標を明確に体力つくりの取組を充実する。 ・PTAのテーマにある「早寝、早起き、朝ごはん」を児童自身にも意識させ、生活がんばり週間を活用しながら、家庭と連携して健康的な生活習慣を確立する。 ・生命やからだ、健康に関する正しい知識と実践的な態度を育成する。 特に、新型コロナウイルス感染予防については 主体的に取り組むことができるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不登校・いじめ・問題事象未然防止に向けて、組織的に機能する教育相談体制の充実及び、SC・SSWの活用等の取組を推進することことができた。 △健康的な生活習慣の確立が困難な児童に対して、家庭と連携し組織的に、食・睡眠など個別のニーズに応じた指導・支援をさらに進めることがある。 ○感染予防対策について、朝会・学級指導・保健だよりなど多様な発信をすることができた。
人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のよさを認め合うなどともに、多様性を受け入れ誰でも仲良くなれる児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な教科道徳、人権学習等で豊かな人間性を育むとともに、異年齢活動を通して、温かいつながりをつくり居心地のよい学校・学級づくりを進めます。 ・人権旬間（6月前半～後半）、人権月間（11月下旬～1月中旬）で課題に応じたテーマを設け取り組む。 ・人権問題学習では、身の回りの生活の中から課題を見つけ教材化、各教科や道徳における人権学習を進め普遍的・個別的なアプローチを行う。学校・学級だより等や授業公開を通して保護者等に啓発・発信をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権旬間・月間に、学級の実態に応じた目標や具体的な取組を行い、人権朝会等で交流・振り返りをするなどにより「人権を大切にする」学校づくりができた。 ○人権講話により車いすスポーツについて知るとともに、体験もでき、障害についての理解どちらがいを認め合うことについて考えることにつながった。 △感染予防のため、人権学習の授業公開ができるなかたが、コロナ関連の人権も含めて発信していく。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の特性を踏まえて、合理的配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般における UD のよさを活かした指導を充実し、誰もが安心できる学習環境づくりを推進する。 ・行事や体験活動を中心とした自己肯定感を向上させる。 ・コーディネーターを中心に組織的に機能する校内体制の構築及び他機関との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> △学校生活全般において UD のよさを活かした指導を充実し、安心できる学習環境づくりをさらに推進する。 ○コーディネーターを中心に組織的に機能する校内体制の構築及び他機関との連携を深めた。 △児童・保護者に対し、さらに特別支援教育について啓発する必要がある。
次年度に向けた改善の方向性		<p>1 児童の学力向上をめざし、よりよい生活習慣を確立し心身ともに健やかな児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように、組織的・協働的研究を推進する。</p> <p>2 全ての児童に対して個別の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実と理解教育を進めるとともに、保護者・地域にも発信し「共に学び合い支え合う共生社会の実現」を目指す。</p> <p>3 児童の実態を家庭と学校で共有し、よりよい生活習慣を身に付けさせ、SNSの利用の仕方等の課題に対して、家庭（PTA）と連携を図り取り組むとともに、「主体的に取り組む家庭学習」「よい食事」「よい睡眠」「家庭学習」「自分の未来をつくること」を児童が理解できる取組を進め、「今の自分が未来の自分をつくっている」→「今何をすべきか」「なぜしなくてはならないか」→「主体的に動く」</p>	

令和3年度学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮第一小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「学校教育目標」(長期目標) ◆自他を尊重し、自ら学ぶことのもの育成 「目指す学校像」 ◇一人一人が輝き、生き生き活動する学校 ◇やりがいを持って自分の力を発揮する学校 【児童】 【教職員】 ◇安心して子どもを任せられる学校【保護者】 ◇他地域に誇れる地域とともにある学校 【地域の方】		<ul style="list-style-type: none"> ○△単元及び本時の目標が明確で児童にとってわかりやすい授業を年間を通して確実に進めることができた。さらに、学習上配慮を要する児童等への具体的な手立てを明確にした指導支援について進めていく必要がある。 ○学力の基盤となる協調性・自制心・やり抜く力について、人権にかかわる取り組みや日頃の特別活動、各担任等の指導支援によって、全体としては積極的に育成に努めることができている。 △学級経営上一部社会的行動がとりにくい児童がある。また、不登校についても、組織的な対応をしながら大きく改善した児童がいる半面、様々な要因から内面的な困難さのある児童もある。 	<p>「子ども一人の居場所を大事にする中で、生きる力・自立する力をつけることを意識して学校経営を行う」</p> <p>① 多様性を積極的に肯定する。 ② 一人で全部完全な人間でない、補い合うことができるからチームのメリットがあると考える。 ③ みんなが安心して気持ちよく動ける職場にする。</p> <p>経営のキーワード 「チーム第一小一協働し、子どもたちの力を伸ばすことで自らの 人間力を高めるー」</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)
保幼小中一貫教育課程 教学指導	•読む力・書く力・確実に計算する力等、基礎学力を定着させるため、単元及び本時の目標が明確で児童にとってわかりやすい授業を計画的に進めます。 •知識・技能を用いて活用する力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を積極的に進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導部、研究推進委員会を中心には、基礎学力の定着のため、単元及び本時の目標が明確で児童にどどつてわかりやすい(具体的な手立てのある)授業を研究授業や積極的な授業公開によって学び合おう。12月のDRTの標準得点において昨年度よりも伸ばすことを目指す。 ・身に付けた知識・技能を用いて考える力(活用する力を育成するため、研究推進委員会が中心となるつて「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を特別活動・教科の授業研究の視点とし、日々の授業の中での積極的な実践につなげる。また、ICTを活用した授業改善を進める。 ・協調性・自制心・やり抜く力を育成するため、指導のねらいを明確にした学級、学校の取組及び日々の指導を発達段階に応じて意図的・計画的に推進する。生徒指導の3機能を生かした学級経営をすすめるとともに、特別支援教育の視点を大事に居場所のある学校とともに、特なるよう取り組む。 	<p>○2~6年のDRTの結果、昨年比同等以上が国語215人66.8%、算数251人78.0%となり、全体としてテストに現れる力を多くの子が伸ばすことができた。一方で、昨年比下がった児童への対応も含めて進めていく。また、知識・技能等の学力を定着させたための取組として、授業における理解の工夫や定着のための取組など時間が限られている中で進められている。</p> <p>○話合い活動について各学級で研究を進め力をつけ、各教科での学習に生かしていくことができている。また、ICTの活用がどの学級でも日常のことどどりつつきあり、表現方法の広がりや思考を深めるとして活用できている。</p> <p>○日々の学級経営の中で、肯定的な評価を大切に自己肯定感を高める雰囲気作りが進められた。その結果、各学級で発達段階に応じて協調性・自制心・やリ抜く力などを身に付けることができるようになってきている。</p> <p>※DRT全体会の状況から指導内容を見つめなおしていく。</p> <p>※話合い活動の技能を全学級で高め、各教科で進めている授業改善につなげていく。</p> <p>※3つの力の育成につながる指導・支援がどのようなものか、考え方や実践を交流し学びあいたい。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた「友だち」と互いに理解し、信頼し、助け合う」気持ちは育成する指導を進めます。 ・「不登校」、「いいじめ」等の諸課題に対し、自己肯定感を高める等、未然防止の視点での積極的な生徒指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動、学級活動、道徳科を中心とした道徳教育・人権教育を推進する。「友情・信頼」として人とのかかわりに関する指導を重視します。 ・教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的・継続的に伝えいくことで、自己肯定感を高め、自分の特徴に気付き、長所を伸ばすと定めた結果として、学校・学級に一人一人の居場所があるように丁寧な取組を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別活動の様々な取組を通して、自分と他の関係を考え、折り合いをつけ oko ことの大切さを学ぶことを通じて、その結果として、学級や異年齢集団等での互いを大切にする思いや行動が高まっている。 ○不登校傾向を表す児童に早く気づき、その対応を組織的に行なうことができた。その中では、常に居場所の確保に努め、また保護者とともに歩むことを大切にしてきている。 ※来年度のスタートに当たって、クラス替えの場合を除いて、今年の積み上げがリセットされることなく進められるように工夫する。 ※来年も続くと考えられるコロナ禍でも何とか学校の良さを伝えられるように工夫していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における全校的な体力にかかる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発を進めたり、体力づくりの推進と休まず学校に来ようとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○非常に厳しいコロナ禍での教育活動であるが、全職員で情報共有をしながら進めることができている。学校閉鎖や学級閉鎖も経験したが、その都度、全職員で対応や感染防止の取組を進めることができた。 ※コロナ禍による体力・心理両面からくる影響に対して、可能なことでの取組を検討していく。
健 康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における全校的な体力にかかる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発を進めたり、体力づくりの推進と休まず学校を休まない意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業と運動し、期間を決め、集中的に朝マラソンや縄跳び等の取組を行ったり、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発を進めたりすることで、体力（特に持久力）向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○非常に厳しいコロナ禍での教育活動であるが、全職員で情報共有をしながら進めることができている。学校閉鎖や学級閉鎖も経験したが、その都度、全職員で対応や感染防止の取組を進めることができた。 ※コロナ禍による体力・心理両面からくる影響に対して、可能なことでの取組を検討していく。
特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の研究校として、社会的自立を目指した教育活動の在り方にについて、特別活動の分野から研修と実践を重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や児童会活動等の授業や活動の考え方や指導の在り方にについて理論研究を進めます。 ・すべての教育活動の基盤として安心して学べる学級となる人間関係づくりの指導方法を発達年齢に応じて身につける。 ・本年度の府小研2年次研究発表会及び令和4年度近畿特別活動研究大会の準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の重点研究を通して、今現在の子どもたちの生活や人間関係を豊かにすることにつながっていると実感している。 ○研究推進部の丁寧な計画と推進によって、見通しを持った取り組みとなっています。 ※すべての学級で研究が実践につながるような研究を来年度3年次の研究を通じて高めていきたい。
地 域 と も に あ ざ づ く も う 学 校 づ く り	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小中一貫教育の推進によるPTA・保護者会、地域の関係機関、こども園、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の保幼小中一貫教育にかかる取組のねらいをより明確にし確実に実施するとともに、中学校卒業時を見通した教育活動を推進する。 ・本校PTAや学園学校運営協議会との連携を通じて、保護者や地域と一緒に取組を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大宮学園の保幼小中一貫教育の取組を通して、接続を大切にする雰囲気が大切にされている。 ○学校運営協議会を中心に、地域の方々との連携がよく進み、安全や挨拶の取組など大きな支えになっている。 ※教職員の相互理解や指導の一貫性を着実に進めるとともに、地域や保護者の方と連携した取組となるよう進めていく。
次年度に向けた改善の方向性	(1) 来年度も DRT の結果で前年度よりも更に、個々・全体の標準得点を伸ばすことを目指す。 (2) 話合い活動のスキルを全学級で伸ばし、各教科の学習に生かすとともに、肯定的な雰囲気と居場所のある学級づくりを進める。 (3) コロナ禍における様々なリスクを減らすための取組を進めるとともに、心身ともに豊かな成長を伸ばせるように何ができるかを考え取り組む。 (4) 地域と家庭との連携をベースに、様々な意見をもとにより良い教育活動が進むよう、発信と改善を進める。		

令和3年度学校評価自己評価報告

学校名「京丹後市立大宮南小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 案	成 果 と 課 題 (自己評価)		
大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」 大宮南小学校 目指す学校像 (1) 学級づくりを基盤にして、質の高い授業づくりを追及する学校 (2) 全ての児童が大切に育てられている人権的風土のある学校 (3) 家庭・地域と共にある信頼される学校	○教育スローガンの下、児童にも教職員にも、具体的に目標を児童像の在り方を示すことにより、コロナ禍の中でも、児童は意欲的に学校生活を楽しんだ。 ○肯定的な評価を大切にすることにより、互いに思いやりながら学校生活を送り、不登校傾向の児童も改善した。 ○関係諸機関と連携しながら、個に応じた指導の方法を探り、粘り強く指導をしたがまだ課題が残っている。	・個に応じたきめ細やかな指導やドリルタイムやステップ等を利用した反復学習を進める。 ・算数科を重点とし、研究授業を柱として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究をする。 ・大宮学園「言語活用カリキュラム」を活用した取組を進め家庭学習がんばり句間を設定したり、大宮学園「家庭学習の手引き」を活用したりすることで、家庭学習を充実させる。 ・言語活動の充実を目標とした授業改善による授業改善 ③言語活動の充実を目標とした授業づくり ④授業とリンクした家庭学習の更なる充実	○本校を会場として大宮学園授業研究会を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現による算数科の授業改善を行うことができた。それ以降も、自校で研究を継続することことができた。 ○大宮学園「言語活用カリキュラム」を作成し、話し合い活動の『話し合いのポイント』を作成し、充実を図った。 △下校の時刻の繰上げに伴い、放課後補習の時間の確保が難しい。反復学習のための時間確保が必要である。 △家庭学習頑張り句間がマンネリ化している。更なる充実を図っていく必要がある。	○大宮学園「人権教育カリキュラム」を取り入れ、お互いに認め合うことのできる学級を作つていった。 ○いじめの早期発見、不登校の未然防止に向けて、連絡・報告・相談を大切にし、組織的に解決策を考えることことができた。 ○学校が楽しいという児童がほとんどである。また、不登校傾向の児童を早期に発見し、個を大切にする指導をすることで、毎日全児童が元気に登校している。	
生徒指導	【自らも友達も大切にする子】 ①基礎学力の向上を目指した授業づくり ②「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善 ③言語活動の充実を目標とした授業づくり ④授業とリンクした家庭学習の更なる充実	・大宮学園「人権教育カリキュラム」を活用し人権意識を育成したり、人権学習の充実を図つたりする。 ・生徒指導の三機能を生かした授業改善により、授業づくりと学級づくりの一体化を図り、学級経営力の向上を目指す。 ・いじめを許さない心、思いやる心を醸成し、明日も行きなくなる学校づくりを進める。 ②いじめの防止・不登校の未然防止を徹底させる。 ③規範意識の向上 ④ふるさと・人を大切にする心の育成	○全教職員で全児童を優しく包み込むことのできる学校にするため、肯定的評価を大切にし、教職員同士が互に認め合い、繋がり合えるよう職場を作りを大切にした。 ○授業の中に生徒指導の3機能を取り入れ、お互いに認め合うことのできる学級を作つていった。 ○いじめの早期発見、不登校の未然防止に向けて、連絡・報告・相談を大切にし、組織的に解決策を考えることができた。 ○学校が楽しいという児童がほとんどである。また、不登校傾向の児童を早期に発見し、個を大切にする指導をすることで、毎日全児童が元気に登校している。		

健康（体育）・安全	<p>【たくさんましくチャレンジする子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①体力向上の取組 ②基本的な生活習慣の確立 ③健康安全教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストなどを活用し、児童の体力・運動能力の実態を把握し、全校的な体力づくりの取組を進める。 ・家庭と連携し早寝・早起き・朝ごはん等の基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進める。 ・災害や事件・事故、感染症から身を守るためにの健康安全教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三密を避けるための創意工夫をしながら、マラソン大会や運動会、体力作りの取組みを実施することができる。 ○安心安全な学校生活が送れるよう、「新しい生活様式」に基づいた感染症対策を行なうことができた。 △コロナ禍の中、体力作りに制限がかかり、計画通りに取組を進めることができなかつた。
⑤特別支援	<p>①特別な教育支援の必要な児童へのニーズに合わせた支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や発達段階を的確に把握し、適切な教育課程を編成すると共に、個別の教育計画を立てて指導する。 ・児童・保護者のニーズに合わせた個別の教育支援計画を作成し、保護者と連携した指導や支援を進める。 ・校内教育支援部が機能化する体制づくりを整えるとともに、外部機関も利用し、特別支援に関する理解を深める。 ・全校児童の相互理解と互いに学び合う好ましい人間関係を育成し、多様性を認め合うことができる学校風土づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○配慮を要する児童の支援の方法について、学校での見える実態のみならず、家庭環境や児童の内面理解等も大切にし、関係諸機関と連携し、組織的協働的な話し合いを大切にしながら互いに考えることができる。 ○保護者との面談や会話を大切にし、保護者の思いや考え方を受け入れながら、学校としての指導・支援の方法を伝える等、家庭と連携しながら支援を行なつた。 △保護者と学校の連携のみでは、家庭環境的に支えきれないので、要対協等関係諸機関と連携しない家庭が複数あるので、要対協等関係諸機関と連携しながらの取組みが必要である。
①開かれづくりした学校づくり	<p>①保護者・地域から愛され信頼される学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域と共にある学校 ②教師力の向上 ③組織的・協働的な推進体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより・HP・学級通信等を活用し、学校の様子を発信していく。 ・PTAや大宮南小子ども見守り隊と連携し、児童の安全確保のための環境づくりを推進する。 ・教師力の向上を図り、信頼される教員を目指す。 ・教育目標・教育スローガンの具現化に向けての協働的な組織体制を設定し、信頼される学校を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○担任と保護者との連絡を大切にしたり、各クラス学級連絡等を活用して丁寧に学級の取組や児童の様子について知らせたりするなど、家庭との連携を大切にした。 ○行事や取組みのお知らせや変更について、学校だよりやHP、PTAメールで丁寧にお知らせすることなどで、計画の見通しや変更を丁寧に連絡することができた。 ○安全ボランティアの立ち番及び教職員やPTAの安全パトロールにより、安全に登下校することができた。
次年度に向けた改善性	<p>次年度に向けた改善的方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全体で「主体的・対話的で深い学び」を大切にし、変動の多い社会の中でも、臨機応変に対応し、主体的・協働的に創意工夫することでききる力を育てていく。 ・「ICTを活用する力」等今求められている力と従来からなされてきた普遍的な力を両輪にした教育活動を進めていく。読書指導を大切にして、本好きな児童を育てる。 ・感染症対策や健康安全教育を行い安心安全な学校を基盤とし、その時的情勢を把握しつつ、子ども達に達したい力を明確にし共通理解しながら、見通しをもち創意工夫した教育活動を展開していく。 ・関係諸機関と連携しながら、配慮の要する児童の実態を掴んだり家庭や保護者の状況を把握したりすることで、個に応じた指導の方法を見つけ、粘り強く支援や指導をする。 	

令和3年度学校評価自己評報告

学校名 [京丹後市立網野北小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程	1 個の興味関心を引き出し、個に応じた指導を確立し、「わかる」「できる」「考える」授業を進める。 2 振り返りを行い、自らの学びと成長を確認できる活動を行う。	1 学習意欲を喚起する授業展開とねらいが明確で「わかる・できる・できる授業」と、身に付けた知識・技能を活用し考え、友達と交流する中で、さらに深めることができる授業の実践研究を行う。 2 個の興味や理解に応じた授業が進められるよう、積極的にICTを活用する。 3 多様な学習形態や学力補充・家庭学習などにより、基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 4 振り返りを通してより学びを確かめにし、体験活動を経験値として積み上げていき、次につなげられるような活動を仕組む。		○ 「見通す・振り返る」に特化して研究を進め「わかる・できる授業」を目指す授業改善に生かすことができた。 ○ 全学級でICTを活用した授業を進め全学級で積極的に活用した。 ○ TTT授業、習熟別授業、個別指導を行い、児童への学習支援を進めることができた。 △効率的なICTの活用については、個に応じた指導や支援には更なる研究が必要である。 △体験活動を通した経験値の積み上げに関しては、成績については共有することはできなかった。	
生徒指導	1 自他ともに大切にする心を育てる。 2 教育相談を基盤にした生徒指導を充実させる。 3 発達段階に応じた「思ひやりの心」の心を育成する指導を進める。	1 生徒指導の3機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場）を大切にした教育実践を進め。2 カウンセリングマインド、コーチングの手法を意識した生徒指導を充実させ、学級経営に生かす。 3 道徳教育を中心に、特別活動・学級活動、教科指導を通して、道徳教育・人権教育を推進し、友達と互いの良さや頑張りを認め合う活動を進める。また、達成感や充実感を友達と感じ合い自他ともに大切にする心を育てる。		○ 不登校傾向児童の対応方法や本人を含む家族への支援について、専門家の意見を参考にしながら方針を立て確認しながら進めることができた。 ○複数の部が連携し方針立てを行った事前の家庭との連携では複数体制で対応することができた。 △様々な活動を通して自己肯定感は高まっているものの、まだ高学年を中心には見られないため、更に意識した取組や活動が必要である。 △規範意識に課題が見られ指導に繋がらなかつた。	
保幼小中一貫教育	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもにも、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いややりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とともに、郷土を愛する心を育てる。	1 網野学園保幼小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るために、他の小中学校と一体化した教育を推進するとともに、全校員が学校経営に参画する。 2 「自分も友達も大切にできる子」の育成を目指し、「友達と考案を交流することができます」「自分や友達の良いところを見つけることができる」「いろいろなことに挑戦し、次につなぐことができる」をキーワードとした学校経営をする。	保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として		

<p>健康（体育）・安全</p> <p>1 体を動かすことの心地よさを感じる指導を推進する。</p> <p>2 積極的にチャレンジし、自らの成長につながつて、ことを実感する指導を進める。</p> <p>3 振り返りを行い、他の成長に気づくことで、より確かな学びとする。</p>	<p>1 個に応じた目標や短期（各単元）目標を設定させ、自信をつけさせたり、次の活動への意欲を高めたりする。</p> <p>2 目標が達成できるよう支援を行い、達成感や取り組んだことに対する充実感が得られる取組を仕組む。また、児童の相互評価と指導者による適切な評価と併付けを行う。</p> <p>3 振り返りを行い、他の成長に気づくことで、より確かな学びとする。</p>	<p>○体育でも「見通し」「振り返り」を行すことで、目標設定の具体化や自分の成長を振り返ることができる。</p> <p>○ICT機器活用により、個別の課題設定や相互評価、個別指導を効率的に行うことができる、学習意欲の喚起、指導と評価の一體化に繋げることができる。</p> <p>△一部児童に目標に対する意識の低さや前向きにチャレンジすることへの消極的な姿が見られた。課題分析の甘さと指導の工夫が十分ではなかった。</p>	<p>○研究推進部を中心とし、単元構想を基にした授業改善を進めることができた。本校オリジナルの構想シートを活用し、該当単元を中心とした全体的な学習活動を見通すことができることに繋げることができた。</p> <p>○時間割調整の難しさはあったが、授業時間やカリキュラムマネジメントの意識が高まった。</p> <p>○全学級でICTを活用した授業の提供も行うことができた。</p> <p>△課題の整理と解決に向けてPCM手法を十分に活用することができなかつた。</p> <p>○地域の歴史、産業を生かした学習活動ができた。</p> <p>○地域の高校生と共に海岸清掃と漂着物観察を行い、その結果を地元と台湾の高校生と交流することができ、児童の課題意識が高まつた。</p> <p>○地域教材の開発を進めることができた。</p> <p>△保護者や関係者に対して学級・学校通信等を通し発信することができたが、地域への発信が不十分であった。</p> <p>△地域教材の開発を進めてきたが、実際の学習活動に生かし切れていない部分があつた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 不登校傾向児童・要配慮児童・家庭への支援方法の更なる充実 • 授業改善、学力充実に繋ぐタブレットの有効活用の研究と検証 • 非認知能力の育成を目指した授業改善と研究
	<p>特色ある学校づくり</p> <p>研修（教員の資質向上）</p>	<p>1 地域の歴史、文化を大切にし、愛着をもたせる。</p> <p>2 地域人材を積極的に活用する。</p>	<p>• 特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の充実</p> <p>• 自己肯定感を高める指導・支援方法の更なる研修と実践</p> <p>• 地域教材の開発と運用と地域人材の活用、地域への情報発信</p>

令和3年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
保 幼 小 中 一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、し、育 知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成」【目標】 ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんななかよしく生きやりぬく子 ・のびのび生きやりぬく子	【よく学ぶ学校】 ・学習集団の育成 ・基礎・基本の定着 ・思考力・判断力・表現力の育成習慣の定着 ・家庭学習の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○スキルタイムや回復指導等による基礎基本の定着。 △思考力・判断力・表現力を身に付けさせたための授業改善と毎日の自主学習習慣の定着。 ○組織的対応によるいじめや問題事象の早期発見・早期解決、及び家庭との連携による登校渋り、不登校の未然防止。 △積極的な生徒指導及び他学年とのつながりの弱さ。 ○地域との連携による安心・安全な登下校。 △学校公開機会の減少。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業改善を進め、確かな学力を育成する。 (2) 互いの違いを認め合い、仲間とともにできることのできる力を育成する。【いごこちの良い学校】 (3) 生き生きとした元気に、仲間と共に粘り強く最後までやり抜く力を育成する。【毎日登校できる学校】 (4) 地域と連携し、全校児童が安心して学校生活を送り、力を最大限発揮できる教育環境をつくる。【信頼される学校】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアやグループ学習を通して、「わからない」「教えて」と言えるようになります。課題に対する取り組みが強くなります。 ○学園の授業研究会に向け、学び合える授業づくりについて研究を進め、児童が主本的に学習に向かえる課題設定の在り方や単元全体でつけるべき力について深めることができます。 ○DRITテスト等の分析結果より明確になつた課題の回復をドリル学習等で実施し、基礎基本の習得につなげることができます。 △感染対策としてペアやグループ学習が短時間に限られたため、深まりのある学習を行うことが難しかった。 △家庭学習頑張り週間に保護者の協力を得ながら目標達成できるが、期間以外にも自主的に取り組む力を付けなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会や大縄跳び大会等の異年齢活動を通して、高学年がどうしてよりよい取組になるかを考え、実践することができる。また、低学年は集団の一員として最後まで頑張ることができた。 ○取組の経過を大切にした指導を行ってください。 △ルールの大切さが行動実践に繋がるなどして、意味や価値を落とし込んでいく必要があります。 △問題事象への対応は生徒指導部を中心として迅速かつ組織的に行つたつもりではあったが、学校評価アンケートでは16%の否定的な回答があり、真摯に受け止めなければならない。
生徒指導	【いごこちの良い学校】 ・互いの良さでつながられる学級集団、人間関係の構築 ・規律を守り、いじめ・暴言等の許されない機運の醸成 ・「いいじめ」等、問題事象の早期発見・早期解決	<ul style="list-style-type: none"> 日々の開りや異年齢活動の中で、生徒指導の3機能や言葉で伝え合うことの大切さを意識した指導を行いう。 ・追徳教育や人権運動を高める。 ・行事や取組のねらい、過程、振り返りを大切にすることの大切さを学ぶ。 ・網野学園の学力充実月間や家庭学習頑張り週間を基盤にして、家庭と連携しながら家庭学習習慣の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これだけは」(授業規律確立と規範意識醸成)等で、ルールを守ることや当たり前のことが当たり前にできることが大切です。 ・網野学園「これだけは」等で、ルールを守ることや大切な機運を高めることの大切さを考えさせ、行動実践に繋げられるようになります。 ・いじめ、問題事象等の対応は、窓口を一本化し、事実を正確に確認した上で迅速、丁寧、組織的な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会や大縄跳び大会等の異年齢活動を通して、高学年がどうしてよりよい取組になるかを考え、実践することができる。また、低学年は集団の一員として最後まで頑張ることができた。 ○取組の経過を大切にした指導を行つた。 △ルールの大切さが行動実践に繋がるなどして、意味や価値を落とし込んでいく必要があります。 △問題事象への対応は生徒指導部を中心として迅速かつ組織的に行つたつもりではあったが、学校評価アンケートでは16%の否定的な回答があり、真摯に受け止めなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会や大縄跳び大会等の異年齢活動を通して、高学年がどうしてよりよい取組になるかを考え、実践することができる。また、低学年は集団の一員として最後まで頑張ることができた。 ○取組の経過を大切にした指導を行つた。 △ルールの大切さが行動実践に繋がるなどして、意味や価値を落とし込んでいく必要があります。 △問題事象への対応は生徒指導部を中心として迅速かつ組織的に行つたつもりではあったが、学校評価アンケートでは16%の否定的な回答があり、真摯に受け止めなければならない。

健康（体育）・安全	<p>【毎日登校できる学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携による基本的生活習慣の育成 ・目標に向かって意欲的に頑張る能力（非認知能力）の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の児童の様子を把握し、担任や該当分掌と連携した指導や取組を行い、より安全な登下校の確保や登校により傾向の早期発見・早期解決を行う。 ・家庭支援の必要な児童については、ケース会議やSC、SSW の活用により、個に応じきめ細やかな支援を行える体制を構築する。 ・非行防止教室、薬物乱用防止教室、自転車教室等により安全についての意識を高める。 ・網野学園「これだけは！家庭編」をもとに、生活リズムの確立、ゲームやSNS の使用についてのルール作り等、家庭やPTAと連携する。 ・目標に向かってやり切ることや粘り強く取り組むことへの価値づけや肯定的評価を大切に、非認知能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○登校指導や下校時のパトロール等で実態を把握し、課題に対応する指導を行つたことで改善が見られるようになってきた。 ○配慮をする家庭に対する家庭に對してケース会議やSC・SSW の活用、専門機関等との連携を行うことで、児童の安定に繋げることができた。 ○学習や行事等で肯定的評価を大切にしたり、個人内評価を大切にしたりしたことで、粘り強く最後までやり切ろうとする姿が見られた。 △網野学園情報機器アンケートより、情報機器の使用（時間、頻度等）について課題があつたが、児童自らが主体的に考え、使用について見直すまでの指導が不十分だった。
開かれた学校づくり	<p>【信頼される学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域、関係機関との連携を大切にした学校経営 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの小さな変化を見逃さず、きめ細やかに家庭と連携する。 ・PTA役員等との情報共有を丁寧に行い課題解決に努める。 ・地域人材を生かした教育活動や見守り活動を進める。 ・学級だより、学校だより、ホームページ等で、子ども達の様子について積極的な情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校児童を全教職員で見ることで児童の小さな変化に気づき、課題解消に向け家庭と連携することができた。 ○学校公開する機会が減つたため、ホームページで学校の様子を見てもらえるよう更新を行い、発信することができた。＊1日平均閲覧数 約600回 ○読み聞かせやミシン、書道等の学習や登下校の見守り活動等に地域人材を積極的に活用し教育活動を進めることができた。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたきめ細やかな支援体制の構築 ・多様性の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたきめ細やかで適切な指導支援を行い社会的自立ができる力を身に付けてさせる。 ・特別支援コーディネーターを中心として、児童の実態把握、指導の方向性を確認し、組織的な指導を行う。 ・特別支援教育を基盤とし、互いの良さや違いを認め合い、多様性を認め合い、つながりを大切にできる学級経営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の児童への適切な支援を行えるよう特別支援教育コーディネーターを中心として部会やケース会議を適宜もち組織的に進め、適切な支援を行うことができた。 ○取組や行事等を通して、一人一人の良さや違いに気づいたり、互いの考え方や意見の違いを認め合えたりする関係を育むことができた。
次年度に向けた改善の方向性	1 確かな学力の育成 2 コミュニケーション力の育成 3 特別支援教育の充実 4 PTA・地域との連携による安全な教育環境づくり 5 働き方改革の推進		

令和3年度学校評価自評報告

学校名〔京丹後市立島津小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程	・網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通じて、授業改善・学力充実の取組を進めます。	・網野学園「これだけは！」を実践し、随時、肯定的評価を入れながら全校でやり切る。特に、授業編の3つの柱を授業研究会や日頃の授業とも連動させ、学びを深めます。	・「読む・聞く・話す・書く」の活動を授業の中で丁寧に進め、じっくり考える力を伸ばす。	○網野学園「これだけは！」を実践するため「ATV」「BMW」の合言葉を基に、児童の姿勢に繋げた。OICT機器を活用し、視覚的な支援をしながら授業改善を行うことができた。	○網野学園「これだけは！」を実践するため「ATV」「BMW」の合言葉を基に、児童が安心して気持ちよく働ける職場にするために適材適所で校務を分掌させ、相互に問い合わせながら組織的に機能させます。
生徒指導	・網野学園の取組と連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。	・網野学園「これだけは！」を基に、気持ちよく生活するための必要なマナールールを考えて行動できる力、相手を思いやる心の育成を進めます。	・生徒指導の3機能による学級づくりを進め、児童相互及び教職員との信頼関係に基づく好ましい人間関係を育成する。	○生徒指導の3機能を意識した授業づくり、学級づくりを行い、つながりを広めたり深めたりする取組を進めた。	○2ヶ月スパンの「合い言葉」は、児童及び教職員に目指す方向性がわかりやすく、取組の活性化につながった。

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは！」（家庭編）に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。 ・当たり前のことながら児童の育てるための向上を図るなども、家庭学習等を通じて粘り強く活動する心を育てる。 ・安全な生活を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは！」（家庭編）に基づき、他校と連携し進める。 ・健康新たんと体力の向上を図るとともに、様々な取組を通じて粘り強く活動する心を育てる。 ・苦手なことでも互いに励まし合い強く頑張ったことが「よかったです」と実感できる取組を仕組み、自尊感情を高める。 ・日々の生活・活動を通して「安全」について事例を教材化して考えさせ、正しく判断できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは！」の実現に向けて授業改善を行いうため校内研究・研修の充実を図る。 ・特別支援教育の視点を基に、児童理解の力量を高めるとともに、支援を必要とする児童に対して、組織的な取組を進める。 	<p>○身に付けたコミュニケーション能力を様々な場面で発揮し、自分の思いや考えを堂々と表現できる児童が増えた。</p> <p>○高学年の様子から刺激を受け取り入れる学年が多く、学びが全校に広がった。</p> <p>△コロナ感染症対策のため学ぶ機会が制限され、思うように総合的な学習等を進めることができなかつた。</p> <p>○昨年度の島小システムや方向性を継続し内容の充実を図る。特に、学園の教職員で常に交話しながら目指す姿の指標を検討し、本校の教育活動においても常に意識していく。</p> <p>・外国語教育で付けたコミュニケーション力を他教科や領域に生かし、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを進める。</p> <p>・教科や総合的な学習の時間等において、「琴引き浜」等様々な地域の資源から学ぶ。また、様々な機会をとらえ地域の方々との交流や学びを大切にする。</p> <p>1 新設される自閉・情緒学級を学校教育の軸にして教育的ニーズに応じた支援を適切に進める。</p> <p>2 「主体的・対話的で深い学び」について更に研究を進め、学力向上を目指した授業改善及び1人1台の端末を活用し子ども達の能力・適性や興味関心に応じた最適な学びを充実させる。また、教員のICT活用能力の向上を目指す。</p> <p>3 網野学園の教育活動の積み重ねを土台として、小中連携・小中連携を充実させ、より具体的で焦点化した取組を通して一歩ずつ改善していく。</p>
次年度に向けた改善性				

令和3年度学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立橋小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)	成 果 と 課 題 (自己評価)	
【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の像」 【目指す子】 あ：明るく元気に学習に取り組む子ども み：みんながよく支え合う子 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども	○地域のつながりを大切にした活動を大切にし、児童に豊かな体験を通して授業を運営した学びの場を設定することができた。 ○働き方改革の確実化を具体的に進めた。 ○児童の興味関心を大切にした学習の展開を進めてきた。 △学習内容を構想するごとに課題が残った。 △児童の自己肯定感や、主体性が低い。 △校内の授業研究として、研究授業を通じた協議の場が少なく、研究テーマの具体化が弱かった。 △保護者対応等の初期対応に課題があり、より組織的に、ていねいに進めが必要があった。	1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を行う。 ・算数科を中心とした組織的な授業研究を進めます。 ・単元構想シートを活用した授業づくりを行います。 ・ICTの活用により、児童の興味関心を引き出す授業展開を行います。 2 学力向上の取組を進める。 ・担任と専科教員、特別支援教育指導員、スクールサポートの一の連携や、外部資源の活用により、個に応じた効果的な指導を行う。	○校内と網野学園の授業研究会を合わせて4回実施し、授業づくりについての研究を深めました。 ○ICTを活用した授業改善や休業中のオンライン授業等を実施し、校内で成果を共有できました。 ○地域の人の力を活用により個に応じた指導を大きく、十分な課題解決には至らなかった。学力の二極化に対して、下位層への補習等の場を設定しているが、授業との連携等で課題が残り、十分な成果が上げられなかつた。	○登下校の見守り活動をはじめとする支援をいたしました地域の方への感謝の気持ちを伝える場を設定し、地域とのつながりを大切にした人間性の育成に努めました。 ○コロナ禍により縮小とはなつたが、運動会や大縄跳びの取組を通して学年を越えた人間関係づくりを進め、上級生をモデルとした規範意識や人間性の育成に努めました。 △登校満足度のあつた児童2名について教育相談部を	
保 幼 小 中 一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	1 豊かな人間関係を育てる。 2 認め合える集団づくり	1 豊かな人間性を育てる。 ・生徒指導の三機能を働かせた授業や、学級経営を行う。 ・考える道徳の授業を通して多面的・多角的な考え方を育てたり、人権学習の充実を図ったりすることでの豊かな人間性を育もう。 ・地域とのつながりや外部講師等の活用により多様な人との関わりから豊かな人間性の素地を養う。 2 特別活動部や生徒指導部の連携した取組によって、異年齢集団活動を通じた豊かな関わりを経験させる。 ・認め合える集団づくりを通して、児童の自己肯定感を高める。	○登下校の見守り活動をはじめとする支援をいたしました地域の方への感謝の気持ちを伝える場を設定し、地域とのつながりを大切にした人間性の育成に明確に意識設定することや、自立と支援の使い分けを明確にする必要があつた。		

健康（体育）・安全	<p>1 何事も最後まであきらめずにやり通す きらり強い心を育てる。</p> <p>1 体力の向上 ・体力づくりの取組などをして、児童が目標達成に向けで最後まで粘り強く取り組む力を付ける。</p> <p>2 主体的な児童の育成 ・児童が挑戦できる場の設定や、目標をもつて取り組むための支援や肯定的な評価を大切にした取組を進めることで次の意欲を高める。</p> <p>3 健康の維持 ・生徒指導部や養護教諭等が連携し、生活リズムを整える取組を進めるとともに、生活習慣等に課題のある児童や家庭に対して丁寧な支援を行う。</p>	<p>○中間休みを活用して目標をもったマラソン練習や縄跳び等、体力づくりの取組を進めた。</p> <p>○学校行事に向けた取組では、日々の振り返り活動を大切に児童の主体的な取組を進めた。</p> <p>○長期休業期間明けには、生活習慣づくりを進めた。生活習慣に課題のある児童には、保護者面談の設定等を設定して改善に努めた。</p> <p>△密を避ける等、コロナ禍への対応により体力づくりの取組や体育での運動量を十分に確保することができなかつた。</p> <p>○△新型コロナウイルス感染予防について指導し、基本的な予防習慣を身に付けさせよう努めた。</p> <p>△新型コロナウイルス感染症が拡大による人権侵害が起こらないよう、各学級での事前指導や個人情報の管理に努めた。</p>
人権教育	<p>1 道徳や人権学習を充実させ、コロナ禍における</p>	<p>○年2回設定している人権専門には、学級内の人間関係の見直しや課題解決に向けた話し合いだけでなく、人権教育年間計画に沿つて個別の人権問題（LGBT等）にも触れる学習を設定して取り組んだ。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の拡大による人権侵害が起こらないよう、各学級での事前指導や個人情報の管理に努めた。</p> <p>○△小規模校のため、人間関係の固定化が見られ、機会毎に改善の取組を行ったが、指導の継続が必要である。</p>
研修（質質向上の取組）	<p>1 学校課題を踏まえた研修を行い、克服を目指す。</p>	<p>○学力課題に対して、授業改善につながる研究を進めるとともに、診断テスト等の結果から課題を立案等を行った。</p> <p>○特別支援教育に向けた計画の立案や支援について、児童の実態交流や、理論研修により充実を図った。</p> <p>△少人数のため、授業と学力実態の把握、指導の改善等を短いサイクルで行つていきたい。</p> <p>△特別支援教育指導員のような専門性の高い教員を活用した研修を設定できず、残念であった。</p>
次年度に向けた改善の方向性		<p>・特別支援教育の充実と、理解教育を進めることで、児童が安心して学べる環境を整える。</p> <p>・教職員の人権感覚を高め、人権学習を中心としたより良い人間関係づくりの取組を進める。</p> <p>・児童の自己決定の場を効果的に設定し、主体的な活動の場を生み出せるよう行事・取組を工夫する。</p> <p>・校内の授業研究組織を活性化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。</p> <p>・基礎的・基本的な内容の定着を図り、学力課題の克服を目指す。</p> <p>・ICTを活用した授業改善や、コロナ禍における家庭教育・オンライン授業等の充実に努める。</p> <p>・来年度2月に予定されている本校での網野学園授業研究会の場を活かし、研究推進部を中心とした授業改善の動きを活性化させる。</p>

令和3年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立丹後小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標（丹後学園共通） 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どももの育成」 く目指す学校像（学校） 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校		<ul style="list-style-type: none"> ○「食育」を各教科・領域に関連付け、食に対する望ましい知識と実践力を身に付けさせたために児童実態に即して低、中、高学年の授業研究を進めることで、丹後小学校の実態に基づいた具体的な学力向上の改善策を考えることができた。 ○データに基づく研究をすることで、丹後小学校の実態に基づいた具体的な学力向上の改善策を考えることができるよ。 △学力向上を目指して、個別指導に取り組んだが学習の定着に課題が残った。 △教育相談部を中心に面談を実施し不登校の未然防止に努力を重ねてきたが、組織的に取り組む点等で課題を残した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再配置 3年目となる丹後小学校が、安定した学校運営ができるようには教職員全員でベクトルを合わせて取り組む。 ・令和3年の京都府学校給食研究会研究推進委嘱校研究発表に向けて、令和2年度の成果を活かしつつ教職員一人ひとりが積極的に研究を進めていけるように、組織的に学校経営を進める。 ・ICT機器を効果的に活用した授業づくりを進める。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園の研究テーマである「主体的・対話的で深い学び」や「探究的・対話的で児童がわかりやすい授業づくり」を進め、児童が明確で児童がわかりやすい授業づくりを進められる。 ・各教科の授業において、自分の考え方の発言や対話、言語活動を重視した指導を行う。 ・令和3年の京都府学校給食研究会研究推進委嘱校研究発表に向け、特に「食に関する指導」を中心に行き続き研究を進めていく。 ・タブレット・電子黒板等のICT機器を効果的に活用した授業づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究部を中心に、全学年で研究授業を行うなど学力向上に向けた授業づくりも大きく進んだ。 ○京都府学校給食研究発表に向けた全教職員で力を合わせて取り組むことができた。この取組が得られた。が1つになる事等ができ、大きな成果が見られた。 △児童への給食アンケートなどからでも成果が見られた。 △引き続き、学力向上に向けての様々な取組を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体が落ち着き、子ども達の挨拶の声が大きくなるなど児童の変容が見られた。 ○特別活動部を中心に行うことで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 △教育相談部を中心に行うとともに情報共有し、組織的な対応をチームで行う。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の3機能を踏まえ、児童が児童の良さをまとめて、就学前から中学校まで一貫した生徒指導を進めている。 ・いじめ、不登校の未然防止及び解消のために教育相談部を中心に行うとともに情報を共有し、組織的な対応を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園の生活のきまりを守り、教師が児童の良さをまとめて児童同士がお互いの良さを学級活動や多様な異年齢集団での活動の中で、意識して伝えることで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 ・いじめ・不登校の未然防止及び解消のために教育相談部を中心に行うとともに情報を共有し、組織的な対応をチームで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体が落ち着き、子ども達の挨拶の声が大きくなるなど児童の変容が見られた。 ○特別活動部を中心に行うことで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 △教育相談部を中心に行うとともに情報を共有し、組織的な対応をチームで行う。

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> 全般的な体力にかかる取組の充実と積極的な児童への指導を行い、学校を休まない強い体をつくる。 困難なことにも粘り強く挑戦していくことを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 期間を決め計画的に体力向上の取組を体育の授業と運動させながら実施する。 新型コロナウイルス感染症の影響等で運動不足にならないように、全学年体育の時間にサーキットトレーニングを継続して行う。 学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に開すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間休みの体力づくりでは、3密を避けるために3グループに分けて、ストレッチ、リズム運動、5分間走のエクササイズに取り組んだ。 校内マラソン大会において、目標を持たせながら取り組めた。当時は、参加者全員が走り切ることができなかった。 △コロナ禍で運動会やスケート教室、駅伝大会等が規制中止となったり、大繩大会等の異年齢活動等が規制せざるを得なかつた。 ○中間休みの換気や消毒を行い、マスクの着用や手洗いなどの感染予防に努めてきた。 ○登下校時等に、にこにこカーによる校区内の巡回指導や学校支援ボランティアとの連携を行う事により、交通事故の発生を抑えることができた。 ○感染予防に向けて、年間を通して全校舎の換気や消毒を行い、マスクの着用や手洗いなどの感染予防に努めてきた。 ○登下校時等に、にこにこカーによる巡回指導や学校支援ボランティアとの連携を行う事により、交通事故の発生を抑えることができた。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> 3つの安全（生活・交通・災害）を大切にし、安心安全な学校生活を送らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時にこにこカーの運行や、学校支援ボランティアとの連携により安全な登下校につなげる。 登下校のみならず、校外のきまりを守り交通安全を含め安全指導の徹底を図る。 校内の危険個所点検を行い、適宜、修繕などをすることで教育環境を整える。 新型コロナウイルス感染予防の対策を徹底し、児童が安心して学校生活が送れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子をタイムリーに積極的に発信する。 △コロナ禍の中で、多くのPTA行事などが中止せざるを得ない中ではあつたが、できる形で工夫してPTA活動を行う事が出来た。 △緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令により、外部人材の活用がかなり制限された。 ○学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子をタイムリーに積極的に発信する事ができた。 ○△コロナ禍の中で、多くのPTA行事などが中止せざるを得ない中ではあつたが、できる形で工夫してPTA活動を行う事が出来た。 △緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令により、外部人材の活用がかなり制限された。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧で分かりやすいタイムリーナ情報発信を行う。 PTA・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。 地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動を通して積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となるたたなった取組を計画的に実施する。 また関係諸機関等との連絡を密に取り協力を得る。 地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 読み聞かせボランティア・図書館指導員により、読書への興味を高め本好きな児童を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子をタイムリーに積極的に発信する。 △コロナ禍の中で、多くのPTA行事などが中止せざるを得ない中ではあつたが、できる形で工夫してPTA活動を行う事が出来た。 △緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令により、外部人材の活用がかなり制限された。 ○学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子をタイムリーに積極的に発信する事ができた。 ○△コロナ禍の中で、多くのPTA行事などが中止せざるを得ない中ではあつたが、できる形で工夫してPTA活動を行う事が出来た。 △緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令により、外部人材の活用がかなり制限された。
次年度に向けた改善的方向性	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の3機能を生かした「主体的・対話的で、深い学びの授業づくり」をすすめる。 児童の主体的な活動を通して、意欲と自己肯定感を高める。 丹後学園の指導の重点でもあるコミュニケーション能力の育成をさらにすすめる。 		

令和3年度学校評価自評報告

学校名 [京丹後市立宇川小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)	成 果 と 課 題 (自己評価)	
保 幼 小 中 一 貫 教 育 課 程 教 学 指 导	(1)「できる喜び」「わかる喜び」を実感できる授業、主張的・対話的で深い学びを実現する授業を目指し、学力の定着・向上を目指す。 (2)少人数であることの特性を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの両立を目指す。	1 「できる喜び」「わかる喜び」を実感できる授業、主張的・対話的で深い学びを実現する授業を目指し、学力の定着・向上を目指す。 2 少人数であることの特性を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの両立を目指す。	○「できる喜び」「わかる喜び」を実感できる授業を全学年で実施し、一人ひとりの確かな学力を育成するための授業改善を進めます。 △読書活動、家庭学習、ドリルタイムの充実などを図り、学力のベースづくりを継続的に行う。	△「かがやきノート」や「計算チャレンジ」に取り組んだ。家庭学習の取り組み方に向上が見られたことから、計算力向上の学級目標を達成できました。 △全般的には『読むこと』に関する課題がまだ残る。より効果的な授業改善を進める。	
生 徒 指 导	1 生徒指導の3機能を活かし、自己有用感と自己肯定感の醸成を図るとともに、進んで学校生活に係るうとする態度を育成する。 2 人権意識の高揚と規範意識の醸成を目指す。	1 特別活動や異年齢集團活動を通して、互いを認め合うことのできる望ましい人間関係を構築させる。 2 人権に関する研修を充実させアンテナを高く張りつづくことで、いじめの早期発見・解消と安心できる関係を構築させる。 3 あらゆる場面で規範意識の醸成を図る指導を取り入れる。	○異年齢集團活動を年間通して計画的に仕掛け、学年間での交流や協力することができた。 ○定例のいじめ対策委員会では、アンケートや日常の観察を元に児童の様子を共通確認し、いじめの芽を摘むよう組織的に行動できた。 △自己肯定感が低かったり自己表現が苦手な児童に対して、より対策を工夫したりする必要がある。		

健康（体育）安全	1 体力の向上と基本的な生活習慣づくり 2 安全に生活するための知識と判断力を身につける。 3 将来の夢や希望に向かって何事にも粘り強く取り組むことのできるところからだを育てる。	1 全校一斉での体力づくりの取組や外遊びの奨励、体育科の指導を通して運動に親しみ、体を動かすことで体力の向上を図る。「げんき貯金」の取組を計画的に行い、日常の学校生活の中で健健康に関する取組を継続して行い、健康に関する知識と判断力を身につけさせる。 3 キャリアパスポートなどの活用で、自分の将来に目を向けさせ、目標に向かって日々努力する大切さに気づかせる。	○中間マラソンや中間なわとびに取り組み、校内タイムトライアルや短縄跳び大会に向けてスキルや体力の向上を全校体制で進めた。遠泳大会は校内水泳検定として実施し、スキルと泳力の向上を図りほぼ全員が目標を達成できた。 ○“げんき貯金”的な取組では、一人ひとりの課題に目を向けながら基本的生活習慣の確立を図り、結果について学年ごとにお便りで啓発した。 △外遊びをする児童が少ない。	
	特別支援教育	1 個別の教育的ニーズや個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に推進する。 2 理解教育を推進する。	1 サポート委員会(特別支援教育部+教育相談部)を中心とした組織的で継続的な支援体制と見守り活動を行う。 2 個別の指導計画・支援計画等に基づいた指導を、年間を通して行う。 3 関係機関との連携を密に取りながら、支援の必要な児童に対する効果的な指導について研修を進める。	○配慮を要する児童について組織的に把握するとともに、指導方法について共通確認して指導した。 ○学校・家庭からの児童支援について、懇談の機会を持ち合理的な配慮について同一歩調で進められた。 △個別に支援が必要な児童に対し、体制的に支援の幅が広げられなかつた。
	特色ある学校づくり	1 片地・小規模校の特性を生かして地域と連携した教育活動を進め、ふるさとを愛し未来を展望できる児童を育成する。	1 総合的な学習の時間や生活科の授業などに地域教材・地域人材などを活用した学習を取り入れる。地域とかかわりを学習活動に位置付け、地域社会との交流や情報発信に努める。	○「児童の学びを止めない」を合言葉に、ほぼ全ての行事を中止にすることなく、できる形で実施し、児童の達成感や満足感が得られるよう、小規模校ならではの工夫ができた。 ○タブレット端末の活用について、授業内だけではなく家庭への持ち帰りも全学年で推進した。
次年度に向けた改善の方向性	◇児童一人ひとりの丁寧な状況分析をもとにした学びについて研究推進する。 ◇今年度もコロナによる教育活動の制限などがあり、地域との交流や校外での学びの機会が持ちにくく状況が続いた。今年のようにできる形を模索しながら『児童の学びを止めない』教育活動を進めよう。 ◇ICT活用をさらに推進し、丹後学園での連携を重視しながら、へき地・小規模校ながらではの取組を推進する。			

令和3年度学校評価自己評報告

学校名〔京丹後市立吉野小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	評価項目	重 点 目 標	評価項目	重 点 目 標
1 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図るために、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級づくりを推進する。	○どの学年も、生徒指導の3機能を生かし、落ち着いた学級経営と授業づくりを進めることができた。 ○コロナ禍ではあつたが、学園の授業研究会の取組を活用したり、外部講師を招いたりして校内研修を充実させることにより、教員の人材育成、授業改善の学習評価の在り方に関する校内研を実施し、新学習評価指導要領に示された目標を意識して児童の学習評価をすることができた。 △児童の読解力を高めるために、さらに読書活動の充実を図る。 △ICTの効果的な活用をしていく。	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を進めることで、児童の学習意欲が高まっている。 2 主体的・対話的で深い学びの実験の授業づくりの実践を進め、教員の指導力の向上を図る。 3 家庭・地域との連携を深め、特色ある学校作りを進め、郷土を愛する心を育てるこにより「生きる力」の育成に努める。 4 ICTの効果的な活用をすることにより、ユニバーサルデザインの授業を行い、発達課題のある児童も意欲的に学習に向かえるようにする。	1 落ち着いた学級経営と効果的な授業づくりを進めるために、生徒指導の3機能を意識した授業を行う。 2 主体的・対話的で深い学びによる児童の学力の向上を図る。 3 家庭・地域・関係機関との連携を深め、特色ある学校作りを進め、郷土を愛する心を育てることにより「生きる力」の育成に努める。 4 ICTの効果的な活用をすることにより、ユニバーサルデザインの授業を行い、発達課題のある児童も意欲的に学習に向かえるようにする。	○●どの学年も、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを意識して取り組み、概ね落ちていた学級経営を行なうことができたが、一部の学年で、2学期終わり頃より教員と児童の関係がうまく結べなくなり、生徒指導部を中心にして、全校体制で関係が改善するよう努めてきた。来年度はさらに児童理解を図り、指導方法について研修を行うようにする。 ○全学級研究授業に取り組むことができる。また、センターの出前講座を2度実施し、授業づくりの具体について学ぶことができた。 ○●ICTの活用については、どの学年もできだが、さらに効果的な活用については、今後も引き続き研究を続ける必要がある。 ○読み聞かせ・本の紹介などの取組を進め、読書に親しむ児童が増えた。	
教育課程 学習指導	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりの推進 2 主体的・対話的で深い学びの実験	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を進めることで、児童の学習意欲が高まっている。 (1) 特に1学期は授業スタイルの定着とともに、落ち着いた学習環境を整える。 (2) 授業づくりを通して学習意欲の向上を図る。 2 主体的・対話的で深い学びの授業づくりの実践を進め、教員の指導力の向上を図る。 (1) ICTの効果的な活用を研究する。 (2) 出前講座を活用する。			

生徒指導	1 生徒指導の3機能を生かした学級経営の推進	1 自尊感情の育成 生徒指導部を中心に生徒指導の3機能を生かした学級経営を意識した取組を行う。 2 いじめ・不登校の未然防止 (1) 教職員の人権意識を高揚する事象もあつた。 (2) 情報モラルの指導・法やルールに関する教育等を行う。 3 望ましい集団活動や体験活動を通して、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。	○生徒指導部を中心に、生徒指導の3機能を生かした学級経営についての校内研修を行い、指導の経過を交流する。○いじめの未然防止・規範意識の高揚 ○●教職員の人権意識を通じて、长期に改善する事象もあつた。 ○情報モラルの学習は、講師を招き全校で実施することができる、身近なチームなどについても、具体的に学ばせることができた。 ●コロナ禍で実施できない活動もあつたが、できる範囲で行事や異年齢活動を行い、学年の枠を超えた集団活動に取り組むことができ、コミュニケーション能力を育てることができた。
	2 いじめ・不登校の未然防止	1 食育・健康新たと体づくりの取組推進 2 危機管理意識の高揚と事故の未然防止	1 コロナウイルス感染対策を徹底させ、食育の推進と、年間を通した体力づくりを進めることにより、検温・マスクの着用・手指の消毒などを習慣化させることができる。 2 校内研修を行い、教職員の危機管理体制を高めるとともに、報告・連絡・相談体制の徹底を図り、早期発見・早期対応に努める。
	3 良好人間関係づくり	1 特別な教育支援が必要な児童の課題・障害に応じた支援や、指導方法の改善 2 家庭や関係機関との連携	1 必要な児童の教育支援計画・個別の指導計画を整備し、保護者と共通確認のもと指導に当たる。 2 理解教育を計画的に進めるとともに、特別支援教育に関する研修を行い、児童の指導に生かす。
健康（体育）・安全教育			○必要な児童について、複数で定期的な保護者面談を行い、外部専門機関との連携を図り指導にあたることができた。 ○特別支援の必要な児童が、年々増える傾向にある本校では、保護者・外部専門機関との連携がさらに必要である。 ●特別支援の必要な児童が、年々増える傾向にあたる本校では、保護者・外部専門機関との連携がさらに必要である。
特別支援教育			○家庭・地域の協力を得て、田植えなど異年齢で体験できた行事もあるが、新型コロナウイルス感染予防のため、体験できなかつたこともある。しかし、できる範囲で郷土を愛する心を育てるために、農業・丹後ちりめん・赤米など、地域人材に指導を受けながら総合的な学習を進めることができた。
特色ある学校づくり			1 地域の伝統や校風を大切にし、本校の特色である異年齢集団活動の充実を図り、教育活動に生かす。 2 郷土への愛着と誇りを育む。 (1) 保護者・地域人材の積極的な活用を図る。 (2) 丹後学を通して総合的な学習の時間を充実させ、郷土を愛する心を養う。
次年度に向けた改善の方向性			・生徒指導の3機能を生かした授業つくりを通して、安定した学級経営ができるよう組織で取組を進めます。 ・ICTの効果的な活用をさらに進め、授業改善を図る。 ・発達課題のある児童に対して、外部専門機関との連携を図り、本校の実態に応じた適切な特別支援教育を進められるようにする。

令和3年度学校評価自己評報

学校名 [京丹後市立弥栄小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 式	策	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)	
教育課程指導	1 学力実態と課題に応じて個々に指導の充実 2 各教科等における言語活動の充実課題・学園課題克服に向けた保幼小中一貫教育の推進 3 学園課題・学園課題克服に向けたICT利用の推進	① 学力調査と教科結果の関連性・学力結果の推移等を分析し、支援が必要な児童により重点的な指導を行う等の効果的な指導を推進する。 ② 子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む受業を推進する。 ③ 教科間や学級間を越えた意図的、計画的な言語活動を推進する。 ④ 保幼小中一貫教育の接続学年における一貫性・連続性のある指導を推進する。 ⑤ 教育活動の基盤的なツールとして活用できることを目指し、児童がICTを日常的に活用できる環境づくりを推進する。	○單元に効果的に位置付けた言語活動を推進し、校内の掲示物や児童発表はその成果がよく表れた。 △園小連携の交流活動では、小学校側の指導の視点から活動を進めたため、年長児側からの目的が不明確となり、生徒指導の3機能を重視した特別活動を実施は例年より減少した。 ○「感染症対策の基本」を作成し、「授業や活動を通じて定着させる」ことで、児童の意識が高まり、体調不良による欠席者は例年より減少した。 △コロナ禍でSUN・インターネット利用者が増え、それによるトラブルや睡眠不足等の問題が起こっている。	1 確かな学力の育成 2 いじめ・不登校の未然防止 3 健やかな身体の育成 4 特別支援教育の充実 5 特色ある学校づくり	○各種学力検査結果を分析し、課題を中心に教員全體で共通理解力を図り、学力補充の取組には言語活動を取り入れるなどの学級も単元のまとめて学習のまとめを発表しあう等の取組が頻繁に行われた。 ○どの学級がタブレットを活用した授業に取り組み、すべての児童がタブレットの活用に慣れ親しくなった。特に高学年においては、その長所を生かして授業以外の活動にも活用していた。 △保幼小中一貫教育の1・6学年の交流活動は、目的が明確となることができた。しかし、他学年については目的が曖昧になり活動ありきの交流となつた。
生徒指導	1 自己有用感の育成 2 不登校やいじめの未然防止、解決に向けた早期発見・早期対応 3 生徒指導の3機能を生かした学級経営を基盤に、自分の存在が確認でき、自己有用感を高め解決する。 4 効果的なICT利用の推進	① 生徒指導の3機能を生かした学級経営を基盤に、児童の実態交流を行い、児童の問題が複雑かつ困難になる前に、チームによる支援につなげる。 ② 日常的に会議や職員室で児童の実態交流を行い、児童の不適応を少しでも早く発見し、問題が複雑かつ困難になる前に、保護者面談・家庭訪問等を行って直撃、間接に信頼関係を積み重ね、問題行動の早期発見・早期対応につなげる。 ③ 保護者面談・家庭訪問等を行って直撃、間接に信頼関係を積み重ね、問題行動の早期発見・早期対応につなげる。 ④ 気になる児童については、積極的にアセスメント(見立て)を行い、なぜそのような状態に至ったのか、児童の示す行動や要因、背景を収集して分析し、明らかにする。	○学校行事を中心による取組を感染症対策を講じながら工夫して実施した。学級経営の成果が各取組で生かされるとともに、各取組が学級児童の仲間意識をさらに高めるといつたサイクルにつながった。 ○職員会議では毎回児童の実態交流を行い、報告された児童については教育相談部等の対応につなげた。 △本校の問題事象の多くは、発達障害に係る場合が多い。今後も教員の専門的知識・技能の向上を図ると同時に丁寧な対応等を進めていく必要がある。	1 確かな学力の育成 2 いじめ・不登校の未然防止 3 健やかな身体の育成 4 特別支援教育の充実 5 特色ある学校づくり	○学校行事を中心による取組を感染症対策を講じながら工夫して実施した。学級経営の成果が各取組で生かされるとともに、各取組が学級児童の仲間意識をさらに高めるといつたサイクルにつながった。 ○職員会議では毎回児童の実態交流を行い、報告された児童については教育相談部等の対応につなげた。 △本校の問題事象の多くは、発達障害に係る場合が多い。今後も教員の専門的知識・技能の向上を図ると同時に丁寧な対応等を進めていく必要がある。

健康（体育）・安全	1 体力づくりの推進 2 健康課題への対応	<p>①自己のめあてをもつて楽しく安心して運動に取り組める ことを基本にした運動量のある体育授業を推進する。 ②新体力テスト結果の分析から本校における課題を把握し、課題となる運動能力を高めるための取組を推進する。 ③感染症対策を切り口に、健康に関する事項についての正しい知識とそれに基づく望ましい行動化を目指し、全ての教育活動に感染症対策の視点を取り入れた取組を推進する。</p>	<p>○本校の実態に応じた「感染症対策の基本」を学校指導や特別活動等の行事や取組に反映させた。「授業や活動を通じて理解させ定着を図る」ことで、健康新たんの意識が高まった。 ○運動等が制限される中でも、体育においては活動内容を工夫して一定の運動量を確保することができた。 △新体力テストの分析が十分に行えなかつたため、課題となる運動能力を高めるための視点を教科体育に計画的に取り入れることができなかつた。</p>
	特別支援教育	<p>1 切れ目ない支援 の充実 2 バランスの良い 集団指導と個別支 援の充実</p>	<p>①個別の指導計画、個別の教育支援計画を活用し、学校と保護者が将来を見据え、協働して児童を支えるための指導・支援を進めるとともに、学級担任以外の教員等と共に協力を図り、その協力を求めるための効果的なツールとして活用を図る。 ②中学校への適切な引継ぎを進めるために、関係教職員による互いの学校見学や、児童・保護者の中学校見学等の機会を設ける。 ③日常的に通常学級担任等と通級指導担当と情報を共有し、通級による指導を通常学級での指導に生かす視点を持つ。 ④生徒指導部と連携し、未然防止の観点から個別支援と集団指導の2つの視点での対応を進めるとともに、発達障害等について考慮すべき事象に関しては、指導により自覚を促すやり方ではなく、きつかけや前後関係も含めて要因を分析し、児童の適切な行動変容へとつなげる。</p>
特色ある学校づくり	1 郷土の素材を生かした学習活動の推進	<p>①地元産食材や郷土食に係る学校給食を切り口に、食に関する知識や体験を広げ、食の選択や判断ができる力を育成するための取組を推進する。 ②地域学習や地域人材を活用することを通して、学校と連携・協働する。</p>	<p>○感染症対策のため地域人材の活用等に一定の制限はあるが、総合的な学習の時間や社会科等での学年も地域人材を活用した学習活動を計画し、その成果を発表会等で報告することができた。 △感染症対策もあり、計画していた食に関する取組が年間を通して実施できなかつた。</p>
次年度に向けた改善性		<p>①働きがいがあり、かつ健康的な職場づくりを進める。 ②信頼される学校づくりに向けた情報発信、迅速・誠実・丁寧な対応を心がけるとともに、危機管理意識を全教職員がしつかり持ち、日々の教育活動に取り組む。 ③保幼小中一貫教育を最大限活用して不登校の未然防止や予防を意識した学校の取組を進める。</p>	

(別紙様式1)

告 告 報 報 價 價 評 評 己 己 自 自 學 學 校 校 評 評 令 令 和 和 3 3 年 年 度 度

次年度に向けた改善の方向性	目標とする児童「つながり、たくましく、輝く久美つ子」像の具現化	～令和4年度～	目指す児童に向けた研究推進を核に、全ての教育活動において、「つながり、たくましく、輝く久美つ子を育み、将来の社会的自立へ
			強点
健康（体健やく）・安全	何事も最後まであきらめずにより通すたくましい強い心を育てる。	○「あいすつくろうよ！等キャンチフレーズで伝統的な生活を過ごした。	①掃除を協力して今まである子どもをして育てる。・根気強く、一つのこな生活を当面にやり切る子どもを育てる。
開かれた学校づくり	社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラムマネジメントの推進を図り、「地域とともに育つ学校」を目指す。	○児童が長くなし、不登校傾向なし等安定した出席日数であった。(作年度に続き、長く児童の報告なし等)	②日常生活を最高の強みとして生かされはじめある生徒指導の取組が本校の強みとしして生かされた。
特色ある学校づくり	学園目標「ふるさとを愛す」学校として、「家庭・地域とともに育つ学校」を目指す。	○安心安全な環境作りが進んだ。(事故災害報告なし等)△人間関係を良好に保つた。(学校評価アンケート高い率)	③・基本的な生活習慣、家庭学習、目標を取り組む子どもを育てる。(校内外各種大会、コンクール等)
次年度に向けた改善の方向性	「つながり、たくましく、輝く久美つ子」像の具現化	～令和4年度～	1. 地域・保護者の支えを生かした教育活動に外へ発信、外から中へ(クラブ活動も、読書ボラ、保護者授業、見守り隊、等)：生活総合で経営力を進めめる。 2. 安定した学級経営：個別最適な学び、指導の個別化 + 学習の個性化 3. 特性を踏まえ、相談し合える風通しの良い職員室を目指す。 4. 新規で、ICT活用を今まで以上に推進：例、家庭とオンライン、児童会、健康教育、保護者アンケート等で個々の児童を見る。 5. 不登校傾向へのゼロ維持のスキルを継続発展：

令和3年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立高龍小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成――子どもの実態や系統性を踏まえた指導――基礎・基本の徹底――主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり)――家庭学習時間の確保		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級経営や授業が成り立たなくて話をする状況から一定脱することができ、落ち着いて話をすることができた。 △ 学習に向かってできることができるようになつてきました。 △ 学級や児童によつて学力の差が大きくなり、引き続き、児童が分かる・できる授業づくりの推進と、基礎的学力の定着が重要な課題である。 △ 児童の指導をめぐる保護者対応で困難になるケースがあつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ○ 「しつかり勉強・やさしい言葉」+考えて行動 ○ 安心感のある学校 …・勉強が分かる・できる・いじめがない ○ 期待感のある学校 …学校が楽しい、友達と遊べる ○ 考える力を伸ばす …自ら学ぶ・友達と関わる授業、読書
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ①児童が見通しを持ったり、できたことや分かったことを振り返したりすることができる授業づくりを、ICTも活用しながら進める。 ②全校体制で個に応じた指導・学習支援体制を確立し、基礎的基本の定着を図る。 ③身に付いた知識・技能を用いて思考・判断・表現する力を育成する授業を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①タブレット端末や電子黒板等、ICTを有効に活用し、学習課題に見通しを持ったり、授業の終末でできたことを振り返したりして、学力の定着を図る。 ②朝ドリル、放課後補習を設定し、全校体制で基礎学力の伸長を図る。また、ジュニアスクール、学習支援ボランティアを有効に活用する。 ③校内・学園での授業公開、研究授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを進め、児童の思考力・表現力・判断力・表現力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度より学園で先行してタブレット端末を活用しており一人一台端末へスマートに移行できた。児童、教員のICT活用のスキルが高まっている。 ○府学力診断テスト、CRT等において、基礎学力の充実の一一定の成果が見られた。 ○低・中・高学年の算数科の授業研究、各プロジェクトの授業公開の取組により授業力の向上につながった。 △ 学年末に行なったDRTにおいては各学年で国語の課題が頭著に表れた。指導を見直すことや児童の、読みの力、書く力、話す力等を高める授業や全校的な取組が必要である。
生徒指導	保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	<ul style="list-style-type: none"> ①自分や友達のよさを認め合い、伝え合う活動を積極的に取り入れる。 ②友達の名前を正しく呼び、発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全教職員で全児童を見る基本とし、児童のよさやがんばりを積極的に見取って肯定的な評価を高めたり、児童の不安や気になる様子等を把握したりする。 ②①を基盤としながら、友達同士の優しい言葉かけ、正しい名前の呼び方を定着させ、自己肯定感を高めるこことにより、いじめや不登校を未然に防止する。 ③「考えて行動する」ことを促し、その時々で望ましい言動について常に考えさせれる。全校共通の月目標の取組を基盤として、目標設定、振り返りに基づく学級経営を進める。
			<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導部会で児童課題を共有し、各学期に全校目標を設定し、目標→取組→振り返りのサイクルで取り組んだ。全体的に落ち着いた学校生活や児童が考えて行動することにつながった。 ○教員の児童に対する肯定的で前向きな声かけを継続して行なうことで、一人一人の児童の自己肯定感を高めることにつなげた。 ○いじめ防止委員会を定期的に開催した。また、いじめアンケート結果を全体で共有し早期発見や未然防止につなげた。 △不登校児童(傾向を含む)については個別にケース会議を開きSC、SSW等と連携しながら取組みでいるが、より深刻になっているケースもあり課題を残している。

健康（体育）・安全	<p>①感染症予防を基盤として、全校体力づくりの取組、運動会、マラソン大会等の行事等を通して、体力向上を図ったり、粘り強く挑戦する心と体を養ったりする。</p> <p>②インターネット、情報機器の使用について、情報モラル教育、各種資料の活用等を行い、家庭と連携して望ましい使い方を指導する。</p>	<p>①感染症予防については、保護者・家庭に理解を得て、引き続き基本的な予防を、管理職が養護教諭と連携し責任を持つて全校体制で行う。また、スクールサポートスタッフも有効に活用する。</p> <p>②インターネット、情報機器の使用について、情報モラル教育、各種資料の活用等を行い、家庭と連携して望ましい使い方を指導する。</p>	<p>○感染症予防については、これまでの経験を生かし、運営会議（三者）で方針を検討し全体で共通理解を図りながら進めることで、全体的には大きな混乱を招くことなく対応できた。</p> <p>△タブレット端末の家庭での活用も進んだ。今後も児童への適切な活用に関する指導と共に、教職員の情報モラルの研修も必要である。</p>
(A) 人権教育	<p>①教職員の人権意識の向上を図り、一人一人の児童を大切にした教育活動を推進する。</p> <p>②人権学習の授業実験力を向上させる。</p>	<p>①職場人権研修担当を中心として、人権研修ハンドブック、シンプリアンスハンドブック等を活用した研修を充実させる。</p> <p>②人権月間を設定し、人権学習の指導内容について交流するとともに、校内、保護者に対して授業公開を行う。</p>	<p>○「やさしい言葉」を設定し年間を通して意識して生活することで、児童のトラブルは減っている。</p> <p>○人権月間を設定して保護者等へ授業を公開した。また、校内研修を行い様々な人権課題について学んだり児童の課題を共有したりした。</p>
(B) 特別支援教育	<p>①特別支援教育を学校経営の重点課題に位置付け、児童の課題に応じた特別支援教育を推進する。</p>	<p>①新規開設した「自閉症・情緒」特別支援学級の指導について、全教職員で理解を深めるために研修を行いう。特別支援教育コーディネーターを中心とした支援部会を定例化し、児童の実態・課題を見落さないようにする。</p>	<p>○新設した特別支援学級（自閉症・情緒）については、特別支援教育コーディネーター、担任、管理職を中心には、保護者と連携しながらスマーズにスタートできた。該当児童の確かな成長にもつながった。</p>
次年度に向けた改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「読む力」「書く力」「伝える力」等を高める授業づくりを進めたい。 ・一人一人の児童が学年や発達等に応じて、自分で「考えて行動する力」を伸ばしていける指導・支援を継続して行いたい。 ・不登校児童について、保護者や関係機関と連携して、安心感のある居場所づくりに引き続き取り組みたい。 	

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立かぶと山小学校]

学校経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 久美浜学園教育目標 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子ども们的育成」	2 めざす児童像 (1) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 (2) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (3) 心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子	<p>◇「深い学び」につながる授業改善を行う。そのため単元や1時間の授業でかける力、ねらいを明確にして実践する。(ICTを活用した授業づくり)</p> <p>◇安定した学級経営を行い、不登校未然防止、早期対応につなげる。</p> <p>◇特別活動を中心として児童の豊かな人間関係づくりに努め、自分の思いを伝える力を伸ばす指導を継続させる。</p> <p>◇個に応じた支援の在り方を進めていくため、外部機関と連携し指導の方針性を明確にする。</p>	<p>1 目標・目的を明確にした上で具体的な方策を考え、評価を踏まえた具体的な改善策の検討を重視する。(組織や過程を活かした意思決定を大切にする。)</p> <p>2 子どもの「素敵な心」に寄り添い、互いに尊重し合い、正しい価値が通る落ち着いた学級経営を大切にする。</p> <p>3 肯定的評価や指導のあり方等、教育活動を進める指導鏡について学び合い、教職員がコミュニケーションを大切にしていく。</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題（自己評価）
教育課程 学習指導	○学力向上を図る学校づくり (1) 主体的な学びに向けた授業づくり (2) 基礎基本の定着を図る取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 単元を見通して、学習内容（ねらい）の理解を明確にした「わかる」授業づくりを推進する。 基礎基本の定着や思考・表現・判断力を充実させる学習活動を推進する。(ICTを活用した授業展開の工夫等) 学習規律（話す聞く等）の定着に向けた取組を充実する。 ドリルワーク等のタブレットを活用したドリル学習を行う。 家庭との連携を密にした学習習慣及び生活習慣を確立する。 	<p>【学力向上を図る学校づくり】</p> <p>○児童同士の考え方を伝え合う活動により、ねらいに即した学び合いの大切さが明らかになった。</p> <p>○一部の学年では、算数科において習熟度別グループ学習を実施し、より丁寧な個別の学習指導を行うことができた。</p> <p>○タブレットのドリルワークを活用し、児童一人一人が自ら進んで取り組むことができた。</p> <p>△1月実施のDRTの結果は、どの学年も全国平均を上回ることができた。</p> <p>△今後も落ち着いた学級経営を継続し、安心感の中で主体的に学ぶ力を向上させる。</p>
生徒指導	○居心地のよい学校づくり (1) 安心と安定のある学級経営の充実 (2) 望ましい人間関係を築く力の育成 (3) 「いじめ」「不登校」等の未然防止に向けた日常的な指導及び相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の三機能（自己存在感・共感的人間関係・自己決定の場）を活かした学級経営を推進する。 日々の肯定的評価の積み上げにより、お互いの良さやがんばりを認め合える集団づくりを行う。 全校的な異年齢活動の取組等の節目づくりを行い、好ましい人間関係を育成する。(かかわり合う中で価値を見出したり、高学年のリーダー性を發揮させたりする。) 的確な児童の日常的に状況を把握し、組織体制の中で情報の共有や見立て、方針を確認し取り組んでいくことで、「いじめ」や「不登校」の早期対応を行う。 	<p>【居心地のよい学校づくり】</p> <p>○問題事象もほほなく、全体的に落ち着いた学校生活を送ることができた。</p> <p>○数少ない異年齢活動において、児童相互の「かかわり合い」に視点を当てた取組を行って、周りの成長と共に喜び合う姿を多く見ることができた。</p> <p>△不登校傾向児童に対して、取組の方針を家庭と共有して取り組むことができたが、引き続き、見立てと取組の工夫を検討しながら、継続的に取り組む必要がある。</p> <p>△児童が安心できる学級づくりを継続する。</p>

健康（体育）・安全	<p>○規則正しい生活ができる、健健康で安全な生活を送ることができる児童を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の体力づくり（マラソン）を計画的に実施する。 家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進める。（学園の課題に応じたメディアコントロールの指導を行う。） 登下校の安全に対して、安全ボランティアの方々と一緒に連携した取組を進めます。（付添い登下校、にこにこカーによる見守り、毎月の登校指導等） 	<p>○「苦手な子も挑戦できる」ことをキーワードにした朝マラソンを行い、ペア学年で励まし合いながら取り組むことができた。</p> <p>○定期的（学期1回）に生活習慣を見直す機会を持ち、メディアコントロールにおいても各学年の指導系統表を作成することができた。</p> <p>△登下校では、安全ボランティアの方にお世話になつていいが、猿や熊等の出没に対する対応も行政との連携も取りつつ考えていく必要がある。</p> <p>○児童の支援に対して、保護者と継続的な面談を行い、具体的な状況や取組を共有し、適切な就学に結び付けることができた。</p> <p>○保護者にスクールカウンセラー等との面談をつなげることで、保護者の不安の解消や継続的な支援に結び付けることができた。</p> <p>△今後も、支援の必要な児童に対して、保護者と支援の方向性や具体的な取組を共有し、共に考える姿勢を継続していく。</p>	
特別支援教育	<p>○配慮を要する児童を中心に、すべての児童に対して合理的な配慮を心がけ、適切な支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 配慮を必要とする児童の状況やその支援のあり方について、継続的に共通理解をしたり校内研修で深めたりする。 スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザー、市臨床心理士等との外部との連携し、配慮を要する児童への適切・有効な支援の仕方を探る。 丁寧で継続的な面談を通して、保護者と支援の方向性や今後の進路についても確認し合い、適切な就学指導を行う。 	<p>○コロナ禍で安易に中止とするではなく、延期や縮小しながらも取組を何とか実施したいという学校の姿勢が実施後の感想から表れていた。</p> <p>○コロナ禍もあり来校する機会がないため、不定期ではあるが105回のHP更新を行い、63626件のアクセスがあった。（2/25現在）</p> <p>○保護者アンケートを11月に早期に実施することで、学校評価に活かし、次年度に向けた改善につなげることができた。</p> <p>△総合的な学習の時間等の教科を活かし、さらなる地域教材や人材を活用した学習活動を推進する。</p>
開かれた学校づくり	<p>○家庭・地域にひらくかね、信頼ある学校づくり</p> <p>(1)意欲的に教育活動を推進する教職員の資質・能力の向上</p> <p>(2)家庭や地域と協働する学校づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観や行事への参加、家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にする。 学校・学級だよりやホームページを活用し、学校や児童の様子等、積極的に情報発信し理解を得る。 学校評議や保護者アンケート、行事や取組の感想を活用し改善に活かす。 地域人材や学校支援ボランティアを活用して、地域の方とのつながりを広げる。 	
次年度に向けた改善の方向性	1	これまでの久美浜学園の教育活動の積み重ねを土台として、「主体性」を発揮するための土台となる「安心感」を醸成させる。まずは、各学級において、「安心・安定した学級経営」「基礎学力の定着」について具体的に取り組み、一歩ずつの改善を目指す。	
	2	「児童相互のかかわり合い」を教育活動の重点的な視点として位置付けると共に、その指導を積み重ねることで、児童の「主体性」の基盤となる「安心感」の醸成を目指す。	
	3	本文の課題である「不登校」の解消に向けて、①「かかわり合い」を通した安心感の醸成、②「基礎学力」の定着、③継続的な状況把握と具体的な見立ての検討、を取り組んでいく。	